



Title	鶴林寺文書および史料目録
Author(s)	大阪大学文学部国史研究室
Citation	大阪大学文学部紀要. 1980, 20, p. 184-279
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/4674
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

鶴林寺文書および史料目録

大阪大学文学部国史研究室

刀田山鶴林寺は、兵庫県加古川市加古川町北在家にある天台宗の古刹である。

寺伝によれば、当寺は用明天皇二年、聖徳太子が秦河勝に命じて三間四面の精舎を建て、四天王寺聖霊院と称したのにはじまり、養老二年（七一八）には寺域を拡張し堂塔を整えて刀田山四天王寺と号したという。史料上の典拠としては、天平十九年（七四七）二月十一日の法隆寺伽藍縁起并流記資財帳（大日本古文書二一六一八頁）に「合庄庄倉捌拾肆口 屋壹佰拾壹口」のうち播磨國に「加古郡一處」とあり、さらに天平宝字五年（七六一）十月一日の法隆寺縁起資財帳（大日本古文書四一五一八頁）に、鰐田地のうちに「播磨國賀古郡一百町開田十五町四段 講法花經料」とあるのが、寺地に関連があるだろうと説く見解もある。さらに仁寿二年（八五二）、円仁によって諸堂の修理が行なわれて、それまでの法相宗を改めて天台宗となり、さらに鳥羽天皇のとき勅願寺となって、現在重要文化財に指定されている「鶴林寺」の扁額を賜ったと、伝える。この草創以来の古代の寺史については、確証を欠くのを遺憾とするが、国宝の太子堂・本堂や重要文化財指定の常行堂をはじめとする多数の文化財からみて、当寺が平安後期にはかなりの壮観を呈していたことは、明らかである。

中世、播磨の諸寺院は、度重なる戦乱のなかで罹災・隆替を免れなかったが、鶴林寺はその数百年間も往時の重要な堂塔を維持して、近世に及んだ。けだしそれは、天台浄土教と聖徳太子信仰によって、当地方一帯の崇仰をあつめ、農村の日常生活文化に深く結びついてきたからであろう。現蔵の諸史料によっても、少くとも中世後期には、近隣の村落住民や地方豪族とそれぞれに深いかかわりをもちながら、若干の寺領とあまたの塔頭を擁して、繁栄していたことがうかがわれる。

鶴林寺には、江戸後期においてもなお塔頭八カ院があつたが、明治になりその多くが廃絶し、現在は三カ院をとどめるだけである。けれども、なお当地方最古の靈刹として、堂塔には往時の盛況の名残りをただよわせているのである。

二

当寺には、国指定の文化財として、国宝建造物二、重要文化財の建築・絵画・彫刻・工芸品など一六、重要美術品二があり、いずれも室町期以前のものである。そしてその他未指定のものを含めて、多数の文化財が伝えられており、調査や修理もすでにいくども行なわれて、美術史家にはとりわけ著名である。けれども、それに比して古文書・古記録の類は、中世前期以前のものほとんど失われており、中世後

期のものも伽藍の遺構の秀麗と盛大に比べて、きわめて乏しいといわねばならない。しかし、戦国期から江戸初期にいたる数冊の寺領田目録の類には、かつての当寺と近辺村落との関係を分析する手がかかりになる記載があり、中世地方寺院を支える社会的基盤を知る上に、注目すべきものがある。われわれが当寺の中世史料および史料目録の公刊におもいいたった主たる理由も、ここにあった。

三

鶴林寺の文献史料については、すでに明治初年に文書・記録類の整理がなされて、大部分について一点ごとの番号も付されており、また太平洋戦争後、東郷松郎氏および井上孝治氏によってその目録と中世文書の読み本もいちおう作成されている。

大阪大学文学部国史研究室では、一九七五年七月にはじめて寺宝・古文書類の拝観を許されて以後、同年十月八日、七八年十一月二十二日、同十二月二十日、七九年三月十三日、同六月十一日、八〇年二月三日、同十日の計八回にわたり、黒田を中心として、井上寛司・藪田貫・笠井純一・今井修平・林文理・大石雅章・村田路人・辻博之・志賀節子・山本真吾・川岡勉・寺脇恵その他が当寺を訪れて、写真撮影・目録作成・読み本作成などの作業をすすめた。ここに紹介するのは、それら諸君の協力によってできた成果のうち、中世の文書（木札

の禁制を含む）・棟札・銘文類と、中世・近世の史料目録である。その作成要領については、それぞれ別に凡例に示したが、総じて既存の分類と整理番号を尊重することを、原則とした。また、研究者の参考のため、信仰に関係ある若干の史料と近世の寺域近辺図を付加した。原稿の作成は、全体としては黒田の責任のもとで行なわれたが、とくに料田目録など冊子と「参考」の諸史料および史料目録については、笠井・村田・志賀の尽力によるものであることを、付言しておきたい。

この史料紹介は、はじめ一、二年のうちにすまされるはずであったが、諸々の事情で数年にわたる緩慢な作業になり、鶴林寺当局に対しても数々の御迷惑をかけることになってしまった。ここに末尾ながら、数年にわたり変らぬ教示と配慮をたまわった鶴林寺長吏幹覚盛師に、厚く御礼申し上げる次第である。

(黒田 俊雄)

鶴林寺文書

凡 例

- 一 鶴林寺に所蔵する文書・記録・木札・棟札・銘文などのうち、中世および慶長以前のもの（それに近いものも含む）を収めた。
- 一 全体を、イ 文書（文書のほか木札の禁制を含む）、ロ 料田目録（寺領田畠の料田目録・検地帳・名寄帳など）、ハ 棟札・銘文、の三部とし他に参考史料を加えた。
- 一 いずれも年代順に配列し、年不明のものは、一括して便宜月日順にして末尾においた。
- 一 文書名などの下の（ ）のなかに、文書については現在文書に付されている整理番号を、塔頭文書・木札・棟札・銘文については今回作製した史料目録の番号を示した。
- 一 イ 文書 については原本の行のかわり目ごとに「」をつけ、ロ 料田目録 については原本に従って改行し丁の表裏ごとに「」で示し、ハ 棟札・銘文 については原則として原本にしたがって改行したが、長大なものについては上下二つに分けてかかげ、つなぎ目を*で示した。
- 一 ロ 料田目録 の諸帳には、後世の多くの貼紙が付されているが、かなり欠落もみられる。幸いにすべてに原初の記載を読みとることができたので、ここでは原初の記載をすべて掲げ、貼紙の現存するものはこれを『』のなかに記し、その位置を*で示した。貼紙の上に加えられた貼紙は△▽のなかに記した。
- 一 文字の擦消し・墨消しで原初の記載を判読しうるものにはくの符号を付して記し、判読できないものは字数を推して■または■で示した。但し■は印刷の都合上、■で示した。抹消した上に加えられた新たな文字は「」のなかに記した。
- 一 字体はできるだけ原文に従ったが、わずかな異体は通常のものにあわせた。
- 一 異筆は「」で、朱書は△▽で示した。
- 一 花押の所在は（花押）で示して番号を付し、その原形は一括して最後に掲げた。
- 一 とくに注記を要する場合は、◇で示した。
- 一 その他については一般の例から適当に類推されたい。

イ 文 書

一 大法師某・左衛門尉平某浮免寄進狀

(端裏書)

「大講堂六禪衆供田御下知狀」

(花押)¹

寄進 鶴林寺

大講堂六禪衆供新米浮免參町事

右當寺本願行基菩薩、為鎮護」國家為群生利益、手自刻彫」菓師尊像、雖奉安置於當堂、依無佛性燈油、無香華燈明」備、然間且奉為國家泰平」且為濟度利生、所令寄進三」町浮免也、以之如形為新米、修法」勤行不可有怠慢之狀、如件

文永五年 戊辰十月五日

大法師 (花押)²

左衛門尉平 (花押)³

二 長田三郎景資仏像・下地寄進狀

奉寄進佛并下地事

合十一面觀音毫鉢
下地老段 在所今福庄公文分内

トイツメ

右為源忠禪門後生菩提」鶴林寺江永代奉寄進處也、然者」每月五日可預御廻向候、如此申定候上」者、於此下地類類況不可有他人妨候、殊為名田余地間、不可有万難公事、仍為後日、永代寄進狀如件

文明拾五年 癸卯十二月五日

長田三郎

景資 (花押)⁴

三 山名政豐禁制 (木札)

禁制 青蓮院領賀古庄

右軍勢甲乙人等濫妨狼籍事」堅令停止之訖、若有違犯之輩者、可」處嚴科者也、仍下知如件

文明十六年八月 日

(山名政豐)

(花押)⁵

四 塩田有政大般若經寄進狀

(包紙上書)

「鶴林寺

大般若寄進狀

賀古河塩田

有政」

奉寄進大般若經之事

合壹部

右大般若者、播州印南郡賀南」條之内宿村塩田為先祖菩提惣而」部類眷属現世安穩後生善處、直錢」貳拾貫文買取、刀田山鶴林寺所奉」寄進実也、每座御轉讀之時者、奉」馮二世悉地成就御祈念者也、仍」自他所願皆令満足、故所奉寄進」之狀如件

文明拾九年 丁卯月十二日

賀古河塩田有政 (花押)⁶

(裏書)

于時執筆云

余施主之御志難有存間、如此令申候、

夫般若之功德甚深廣大也事、仏モ不説盡給、謂非凡夫之識智所、乍

去一言之大綱ヲ申ニ般」若者三世諸仏之智恵母共十方薩埵之方便」之

父共説玉ヘリ、然則四禪八定之冥衆振ハ般若ノ」劔ヲ速害煩惱之怨敵

ヲ或四海八海之龍神」龍王モ捧テ智恵ノ鉢ヲ摧クト惡業ノ盤石ヲ云リ故

須臾モ」聞此法輩ハ除災難、刹那モ歸依スル此經ヲ者、誇」快樂、依

之一所之文云

般若第一經 此經結縁者 雖有重業障 必當得作佛

説玉ヘリ、可仰ミ可信ミ、何ナレハ一紙半錢之微少善根サヘ仏不

捨」給、況大般若若部寄進、誠以功德莫大也、定而知施主」之懇祈、

叶藥師擁護、守護上宮太子モ檀那志給者也、浦山敷ミ可貴ミ

同時筆者記之

五 鶴林寺聖靈會々式(折紙)

(五)

播州鶴林寺

聖靈會々式

先集會乱聲

御迎 慶雲樂奏

擲鉢 三節

蘓利古

登高座 廻环樂奏

供華 十天樂奏

菩薩 師子

唄師 河水樂奏

散花 承和樂奏

大行道 鳥向樂奏

讚衆 白柱奏

法用舞 万歳樂

梵音出

法用舞 延喜樂

錫杖出 入樂

下高座 長慶子

入調舞

安摩 二舞

左 右

蘓合 右鳥蘓

甘州 林哥

太平樂 狛梓

陵王 納曾利

還城樂

拔頭

採桑老 新靺鞨

陪臚左 右

明應二二年乙卯

二月九日

六 津田家職折紙

於當寺乱妨「狼籍事、堅被」制止之条、自「然号足輕非」分申懸族在之者、依交名注進可「預罪科之由候也」

天文拾

二月三日

刀田山

衆徒御中

石見守

家職(津田カ) (花押)⁷

七 安宅冬康禁制 (木札)

禁制

刀田寺

一 当手軍勢甲乙人濫妨狼籍事

一 伐採竹木事 付放火事

一 相懸矢錢兵粮米事

右条々堅令停止訖、若違犯輩者「可處嚴科者也、仍下知如件」

天文廿三年十一月四日

攝津守橘(安宅冬康) (花押)⁸

八 聖護院准三宮御教書

(包紙上書)

「宝生院御房 法印□信」

今度當山御入寺之處、依「馳走被稱院号之條、宜被」存知其旨由、

聖護院准三宮「御氣色所候也、仍執達如件」

永祿四年潤三月廿四日

法 印 (花押)⁹
治部少輔 (花押)¹⁰

宝生院御房

九 池田勝正禁制

禁制 幡州刀田山并境内

一 當手軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一 陣取之事付放火之事

一 剪採竹木之事

右條々堅令停止訖、若於違犯之「輩者、速可處嚴科者也、仍如件」

永祿拾貳正月日

筑後守(池田勝正) (花押)¹¹

二〇 池田勝正禁制写(木札)

(八一二)

禁制 幡州刀田山并境内

一 當手軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一 陣取之事付放火之事

一 剪採竹木之事

右條々堅令停止訖、若於違犯之輩者、速可處嚴科者也、仍如件

永祿拾貳正月 日

筑後守判

二 織田信長禁制朱印状

(九)

禁制 刀田山鶴林寺

一 軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一 陣取放火之事

一 山林伐採竹木之事

右条々於違背之輩者、速可處嚴科者也、仍執達如件

永祿十二年三月 日

(織田信長) (天下布武)
彈正忠(朱印)

三 織田信長禁制写(木札)

(九一)

禁制 刀田山鶴林寺

一 軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一 陣取放火之事

一 山林伐採竹木之事

右条々於違背之輩者、速可處嚴科者也、仍執達如件

永祿拾二年三月 日

信長朱印

三 某禁制写(木札)

(九一二)

禁制 刀田山鶴林寺

一 軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一 陣取放火之事

一 山林伐採竹木之事

右条々於違背之輩者、速可處嚴科者也、仍執達如件

天正六年三月 日

御朱印 在之

◇最後の日付以下の一行は異筆とみられる。本文文面からみて、永祿十二年三月の織田信長禁制の写であろう。

四 織田信長禁制写(木札)

(一〇)

御掟 幡州賀古庄

一 守護不入之事

一 庄内寺庵侍名主百姓等、他之号家礼族、堅停止之事

一 庄内闕所檢断跡職成敗等、可為本所次第事

一 矢錢兵粮陣取寄宿國役等、堅停止之事

一 對本所違乱輩於有之者、不及理為本所「可被成敗事」

右条々被成 御下知被定置上者、堅可被「申付者也、仍執達如件」

永祿十二年十月十四日

織田彈正忠
信長 朱印

祐乘坊

二 豐臣秀吉禁制写（木札）

禁制 刀田山

一 軍勢甲乙人乱妨狼籍事

一 伐採竹木事 附放火事

一 陣取之事

「右条々堅令停止訖、若於令」違背輩者、速可處罪科者也、仍如件

大閣様 御朱印在

◇年月日を欠く。第三条の文言が異なるが、天正六年三月二十五日の羽柴秀吉禁制をもとに作製したものともみられる。

二五 羽柴秀吉禁制

禁制 戸田

一 軍勢甲乙人乱妨狼籍事

一 伐採竹木事 付放火事

一 田畠蒔取事

右条々堅令停止訖、若於「令違背輩者、速可處」罪科者也、仍如件

天正六年三月廿五日

（羽柴秀吉）
筑前守（花押）¹²

二六 信直禁制

禁制 刀田山鶴林寺

二六 羽柴秀吉禁制写（木札）

禁制 刀田山

一 軍勢甲乙人乱妨狼籍事

一 伐採竹木事 付放火事

一 田畠蒔取事

右条々堅令停止訖、若於令「違背輩者、速可處罪科者也」、仍如件

天正六年三月廿五日

筑前守御判在

一 當手軍勢甲乙人濫妨狼「藉之事」
一 陣取放火之亵
一 山林伐採竹木之事
右条々於違背之輩者、速「可處嚴科者也、仍如件」

天正六
五月十七日

信直（花押）¹³

元 某禁制

(一三)

刀田山

行事御坊

御同宿中

禁制 刀田山鶴林寺

一 軍勢甲乙人濫妨狼藉之事

一 陣取放火之事

一 山林伐採竹木之事

右条々若於違背之輩者、速可處嚴科者也、仍下知」如件

(織田信忠力) 14
(花押)

天正六年六月 日

三 羽柴秀吉判物

(一四)

以當郡内貳百」石付置之候、被」得其意、為惣山」全可有寺納」者也、

仍如件

天正八

九月朔日

羽柴藤吉郎

秀吉 (花押) 15

刀田山

三 実善書状 (折紙)

(一五)

上之宮之河成事、」寄進之處、返作候て」誰々ニも可被遣候、於」後
日不可有違乱妨」者也、恐々頓首

天正十

正月廿日

浄教坊

実善 (花押) 16

三 鶴林寺衆議掟状

(三一)

掟状之事

一 元日之出仕不可欠事、并」八日之出仕同前之事

一 二月十五日不参之事

一 同廿二日之事

右定條々於相背者」不可同座候、仍衆儀如件

慶長三戌年

吉

十月十日

慶順 (花押) 17

慶意 (花押) 18

尊秀 (花押) 19

舜秀 (花押) 20

舜慶 (花押) 21

三 松平玄隆折紙

(三二)

(包紙上書)
「松平武藏守殿折紙一通」

為寺領刀田村」内百石坊屋敷分」拾七石三斗四升、令」寄附早、全」

可有寺納者也、仍」如件

慶長十八
十二月廿五日

鶴林寺

松平武藏守

玄隆(池田利隆)
(花押)²²

三 小田盛次書狀(折紙)

(二八)

猶、申候、長井分者」壹石六斗にて候、」其分御心得可有、」此外
不申候

二 小寺祐隆書狀(折紙)

(二〇)

去三月貴山」聖德太子武運」委願賴及之處、御加護」以今度豊前中津
領」被宛行之段、過分」至極候、仍而直錢」千貫文捧之条」武運長久
之御祈願」永賴及候也

小寺官兵衛

正月廿二日

祐隆(花押)²³

戸田
学侶

刀田
常樂坊まいる 御宿所

三月二日

小田
盛次(花押)²⁵

三 増田長盛書狀(折紙)

(二九)

当寺領之事、」去年分之儀者」貳百石之通被」仰付候、然者」其段御代
官衆」へも重疊申」理候、高領貳」百石之分ニ」御給人衆なミの」物
成御請取」有へく候、恐々」謹言

三 元長折紙

(二五)

播州賀古庄鶴林寺」段錢臨時課役諸公」事、自先規勅免」之地云々、
所詮任」先例之旨、諸役等」被免除訖、然者」勤行無懈怠、可」被抽
懇祈者也、」仍執達如件

二月十二日

元長(花押)²⁴

刀田行事坊
御坊中

三月三日

増仁右
長盛(花押)²⁶

二 泰興書狀（折紙）

（二六）

於刀田寺合戰刻」為 太子御神馬」料、毎年五石宛」賀古庄以年貢」
米内、被仰付候處、^{（カ）}遅々^{（カ）}遍被歎申候、不」可然候、速可被渡付」由被
仰出候、恐々謹言

六月廿三日

津田石見入道殿

泰興（花押）²⁷

三 梶原景□書狀

（二八）

（端裏書）

梶原平右

越生 神兵衛尉殿
同三郎左衛門尉入道殿御宿所
庄内 年中 寄中

景

刀田山寺領内溝之儀、越生方」兩人庄内百姓中之懸止」御板、長田村不
謂儀仕候付而、御存分雖在之、我等罷出様躰」申候處、御同心祝着申
候、然者」彼在所曲事由申聞候處ニ、」於向後彼溝之儀、其煩有間」
敷通申候、為御心得一筆申入候、」恐々謹言

六月廿六日

景（花押）²⁸

越生神兵衛尉殿

同三郎左衛門尉入道殿 御宿所

庄内年寄中

三 某書狀

（二七）

就當寺之儀」新元罷上被」申候之間、得其」意^{（マ）}得候事候、」恐々謹言

七月廿二日

□（花押）²⁹

刀田寺

衆徒御中

三 梶井宮令旨

（二四）

（包紙上書）

「刀田山鶴林寺学侶御中 法印任□」

本疏全部本院八部尾江」寄進事、當時希有之」懇志台宗本意之紹隆」
併学道之洪基不可過之、猶」慈光院可為衆洩者」梶井宮御氣色^{（候脱カ）}所也、
仍執達」如件

七月廿七日

法印（花押）³⁰

刀田山

鶴林寺学侶御中

三 杉原家次書狀（折紙）

（二一）

尚々各々」可為御満足候、」於我等大慶候
急度申入候、」仍而其方御」寺領之儀秀吉江」申上候て、前々」た
い子へ何程又」寺僧衆へ二反」なミの通申上候へハ」けつくそれ」

過分ニ御きしん」可被成旨候間」被得其意候て」尤候、然共御判」迄
取候て可遣候間」御札之御用意」尤候、未おんミツ」にて候へハ先
く御たる」の御用意させ可」申と存候て申」入事候、万々可為」御満
足候、恐々謹言

杉原七郎左衛門

八月廿九日

家次(花押)³¹

戸田寺御中

三 政宗書状案(折紙)

(二二)

案文

刀田寺事、号徳」政近邊郷人等可取」懸之遍其聞候、彼」寺之儀自先
く徳政」法被差除云々、殊更」就此方存来、別而」太子致敬信事之条」
無_レ儀之様可被申」付之旨、三木明石へも」申理候、於其上自」然之
儀候者、各罷出」被相支様躰可有」注進候、恐々謹言

十月十日

政宗 在判

梶原駿河守殿

越生甚兵衛尉殿

舟橋四郎次郎殿

越生三郎左衛門尉殿

菅野菅右衛門尉殿

小山三郎兵衛尉殿

菅野宗左衛門尉殿

栗津備中守殿

戸田三郎左衛門尉殿

四 豊臣秀吉朱印状

(二三)

祈祷之卷數」并杉原二十」帖到来、悦」思食候、猶帥」法印可申候也

十月十五日 (朱印)
(豊臣秀吉)

播州

刀田寺

五 黒田職隆書状(折紙)

(二九)

五ヶ条之儀」被仰越様躰」兩人則職へ被」申知候、先々筋目」不可有別
之内存候、相障事無之候、」第一南大門」事先規之躰」聊無別心之間」
可御心安候、免許」出入之儀者、代官」衆何とそ可申」談之由候間、
彼」以扱之上、御談合」可然存候、恐惶謹言

黒田兵庫助

職隆(花押)³²

十一月二日

刀田山

行事坊

参る
御同宿中

三 赤松政村書狀

(一六)

(包紙上書)
「刀田山衆徒 政村」

昨日合戦得大利之段、大慶候、併依祈念如此候、仍神馬一、疋令進

覽候、弥可被抽懇、祈事、頼入候、猶不動院、可被申候、恐々謹言

十一月十三日

(赤松)
政村(花押)³³

刀田山

衆徒中

十二月十二日

正住坊

持從公

御両所

中甚兵衛尉

春安(花押)³⁶

下村喜左衛門尉

久次(花押)³⁷

三 角田佐家・浦上国秀連署折紙

(一七)

當寺信貴講、頼子事、從、先、徳政御免、除之上者、今以、不可有其

煩候、若違乱之族、候者、可被處罪、科之由候、恐々謹言

角田備中守

十二月十二日

佐家(花押)³⁴

浦上近江守

國秀(花押)³⁵

刀田山

御衆徒中

三 中春安・下村久次連署書狀(折紙)

(三〇)

今度色々被仰分ニ、付、御樽代相濟、申候、則三四松引、折帟相調可、

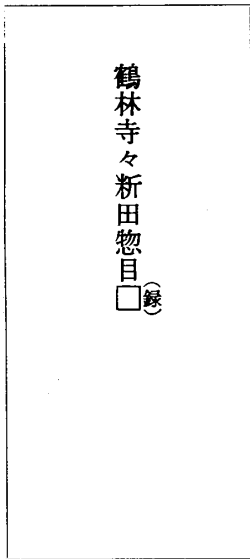
申候条、可被成其、意候、恐々謹言

口 料田目録

一 鶴林寺寺料田惣目録

(冊一)

(表紙)



鶴林寺々領田目録 永正十二年乙亥八月日

合

理趣三昧 肆町伍段

法華三昧 参町玖段

月講田 壹町貳段

已上玖町六段

一勸請神田 参町

塔田

参町

聖靈院修理田 貳町六段

四王供田

壹町貳段

八講田 壹町六段

大般若田 壹町四段

大寺 八段

年頭 六段

長講田 四段

彼岸田 四段

大師供田 四段

常樂會田 壹段

六月會田 四段

承仕給田 貳段

舍利講田 貳段廿

上分田 卅五

安居供田 卅

法花經田 貳段

御佛供田 陸段

佛名田 参段

燈油田 壹町二段

宮大般若田 五段

藥師佛餉田 壹段

聖靈院仏餉田 壹段

常行堂佛餉田 壹段

元節供田 参段

佛生會田 参段

恩損田 貳段

宮仁王供田 貳段

宮仁王供田 貳段

山王田 参段

宮仁王供田 貳段

已上貳拾壹町貳段卅五

一指坪名々 別紙有之

已上拾町卅代十八步内 定五斗代 分米五十石三斗二升五合 損米拾七石一斗一升一合三夕

御仏供田 七反廿五 彼岸田 一反
同御仏供田 七反 大乘経田 一反廿
安居供田 一反廿
残定米

卅三石二斗毫升四合五夕

右於田地所當米者毎年除水旱風之損亡之地
撰定熟田名々之内認指出狀渡本所代官方仁
令収取早然間名々 別紙 毎年記之 往古之例雖為五
斗代依有損亡之煩名主沙汰人百姓中評
儀而近年以來三斗三升宛定置之上者盡
未來際不可有相違者也於此田地者土米公
事錢本所而被免除之旁以異于他下地
也仍掟狀之旨如斯

年号月日

両堂三昧供新田

六町四段内 九反 上二人
五丁五反 (未) 未十人

惣別田数

拾六町四段卅代十八歩

一承仕散田

合

七斗五升代 在所留田 北
一所二反十五内「一反源五郎」彦四郎 同上 在所ハヤ
一石一斗五升 一所卅代 一斗四

宝生坊

鶴林寺文書および史料目録

同 在所石町 一六斗 北
一所一反十 五郎衛門

同 在所ミマタ 冊 冊 四斗 慶門坊
一所一反卅内 冊 四斗 如実相坊

同 在所石町 一五斗 北(助)
一所一反 衛門

同 一所卅代 四斗 北
一所卅代 三郎衛門

同 一所卅代 橋崎 長田
一所卅代 九郎兵衛

同 北山崎 冊代 四斗 口里
一所三反内冊代 四斗 同 大郎衛門
一反廿七斗 長田 二郎大夫
衛門三郎

同 一所五代 大サ
一所五代 奥坊

同 一所一反 宮北
一所一反 安田村

同 一所一反十五 小川原
一所一反十五 持禪坊

同 一所一反廿五代 橋崎 長田
一所一反廿五代 三郎衛門
七斗五升 美蔵坊々領

同 ハケンキヤウ 此内五代不 細田
一所一反 中方

同 一所十五 濱口 長田
一所十五 九郎衛門

同 在所留田 一石 北(助)
一所二反 助衛門

同 一所卅代 留田 北
一所卅代 正慶

同 留田 粟津定阿弥分 長砂 兵衛
一所二反十 一石一斗 三郎

同 一所廿五 荒木前 長田
一所廿五 九郎衛門

同 一所一反廿五内 濱口 五斗 長田
一反二斗五升 同 二郎兵衛
廿五 四郎大夫

同 一所廿代 橋崎
一所廿代 多門坊

同 一所一反 宮北
一所一反 多門坊

同 一所廿代 濱口 口里
一所廿代 京万大夫

同 一所十代 坊領關
一所十代 龍象坊

同 一所十代 坊領關
一所十代 禪林坊

同 中安田堂前 田(侍従公)
一所卅代 三斗

同 一所一反 八ヤ 北
一所一反 三郎衛門

同 橋崎 長田
一所一反 大郎左衛門

同 坊領關
一所五代 常樂坊

同 中村北 坂元
一所十八步 千蔵坊

同 中村北 坂元
一所廿代 助衛門

同 番匠田 長田
一所「西城坊々領」一反卅八斗 馬大夫
一所二反五内 廿五 五郎四郎

同 番匠田
一所一反廿 弁財坊

同 中村北 坂元
一所一反 九郎衛門

同 安田前
一所二反五代 〔谷之坊〕
一反五 安田三郎五郎

七斗代 在所中村
一所二反 坂本 助衛門

同 大田寺前
一所二反卅五内 一反五 円満坊
〔円満坊〕

同 カナカ坪 二反十 龍象坊
一所三反廿内 一反十 二郎衛門

同 坊領關
一所十五代 西明坊

同 木守
一所一反廿五内 廿五 二斗五升 奥坊
一反五斗 弁才坊

同 サラ池ノ尻
一所二反 長砂 三郎兵衛

同 安田前 安田
一所廿五代 二郎大夫

同 西園坊前 買下地
一所一反 東禪坊

同 石町
一所一反十 坂本 五郎大夫
六斗 浄金

同 宮東
一所一反十五 新野邊 助左衛門
六斗五升

同 卅代八
一所「反卅」内 八斗 新衛門
同又二郎

同 留田 北
一所一反 新衛門

六斗五升代 官北
一所一反 多門坊

同 安田前
一所廿代 浄音

同 大塚本
一所卅代内 十代否 細田渡本有 中方

同 一石
一所二反 常樂坊領

同 石町
一所一反 〔如意坊〕
五斗 北 実相坊

同 ハッヘ 北
一所廿五代 彦四郎

同 一石
一所二反 必定坊々領

同 一石
一所二反 弥勒坊々領

同 ヒラ田一反 渡元有衛門大郎
一所一反卅内 卅代三斗 大夫次郎

同 石町 一反 五斗 助衛門
一所二反内 一反 五斗 五郎衛門

一除

同 坊領内 廿五代 東禪坊
一所一反廿五代内 一反 四郎兵衛

同 石町
一所卅代 〔侍従公〕
五 四斗五升

一除

同 一石
一所一反卅 承仕給

同 石町 二反 一石 北 三郎衛門
一所三反内 一反 五斗 〔同孫衛門坂元〕

同 ミマタ 一石
一所二反 奥坊

同 一石
一所三反内 二反 承仕給

同 一石
一所一反卅 承仕給

同 一反 五斗 〔北侍従公〕
一所一反卅内 卅代三斗 安田〔侍従公〕

同 石町
一所一反 持禪坊

同 一石
一所六反 御仏供田

同 一石
一所一反卅 承仕給

同 一反 五斗 〔北侍従公〕
一所一反卅内 卅代三斗 安田〔侍従公〕

同 石町
一所一反 持禪坊

同 一石
一所六反 御仏供田

同 一石
一所一反卅 承仕給

同 一石
一所一反卅 承仕給

南大門屋敷替地
一所二反 小山方
在所サイミ塚

四町貳反 坊領

同 一所廿五 田満坊

同 一所廿五 奥坊

承仕給分
一所廿五内 十五代 十代

已上拾四町壹段卅五代十八歩内

除 陸町四段卅五代

残定田 柒町七反十代十八歩

定米 参拾石四斗七升五合

一寄進散田

合一所一段 龍象坊

七斗五升代 在所小川原 地頭一分方〔北東禪坊〕

一所一反十五代 六斗五升

一所一反 地頭方寄進 北〔侍従公〕衛門
但定四斗三升七合五夕

長田庄公文寄進 二反一石 田満坊
一所三反内 北〔五郎左衛門〕

六斗代 浦上美作守寄進
一所三反 篠原村徳丸名内

一石四斗四升寺升定

一所一反 菅野方新寄進 弁財坊
五斗

常行堂
一所一反 酒田

坊敷畠替地
一所廿五 安樂坊

同 一所廿五 東禪坊

同 一所廿五 以上坊敷之内 安田 次郎大夫

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

同 一所廿五

在所安田前 越生彈正方寄進
一所貳段 浄光院
一石

新野邊衛門大夫寄進
一所卅五代〔寺升〕 番匠 三郎兵衛 衛門
三斗五升

〔井桶〕

新野邊五郎左衛門寄進
一所一反 〔西安田三郎兵衛〕
五斗

越生彈正方寄進
一所一反 奥坊
五斗

大升五斗代
一所貳反廿代内 一反十 番匠 二郎左衛門 安田 小四郎 一反者大寺指坪長田村九郎衛門寄進「重正」
一反十

口里村弥二郎衛門寄進
一所卅代〔大升〕 口里 〔五郎大夫〕
三斗

越生三郎左衛門方
一所一反 新寄進 長 〔禪林坊〕
五斗

イナヤ刑部大夫寄進
一所一反内 五代不在所江田坪 西圓坊
斗代五斗二升五合七合升定 地利分寺貳斗

長田庄内公文 一反下司二反
一所三段 法蔵寺分 西圓坊
〔八斗一升二合五夕〕
六斗五升大升

長田庄内ウス井ノ向カケノ木東
一所四十五代年貢ノ上分 〔北在家〕 五郎衛門
三斗八升七合五夕

大升定
一六斗 法蔵寺寄進 禪林坊

三百六十二文
大升五斗代 恩損出 二反十「如」実相坊
一所三反十内 大升 三斗分
新野邊五郎左衛門寄進 一反 四斗 実相坊

長田庄數田 北
一所一反 本役三斗五升出 五郎衛門
加地子二斗

長田村九郎兵衛寄進 竹カハナ
一所十五代 花田 千蔵坊
一斗五升

同寄進
一所一反 弁才坊
四斗

此内廿代諸公事無之 一反恩損

大升五斗 〔舟橋〕 寄進 北新次郎
一所一反 坂本光阿弥寄進
〔一〕一所一反加徳二斗二升 西明坊

大升五斗代在所安田前貞祐寄進
一所一反 五斗大升 多門坊
有久恩損百〔十三〕出

一斗五升大升アラウチ
一斗五升 六斗二升五合 宝生坊
智慶分

地頭一方分一斗八升七合五夕
一所老段 正慶比丘尼分 西圓坊

高五斗代
一段〔越生方二方分〕 禪林坊

五斗大升
一〔船橋〕神左衛門〔方寄進〕西明坊

已上参町三反廿五代

四五

定米廿一石九斗二合四夕

定米貳拾一石二升八合五夕

八八

定米八拾六石斗升二合五夕 廿石九斗三升五合

二升

十九石七斗貳合五夕 貳十石二斗二升七合五夕

六斗二升五合代

一所五段 包守講田 西明坊 此内一反講代引

定米貳石五斗

五間一答衆配分

一斗二升五合 但寺升 長吏坊

五斗六升二合五夕 学頭

五斗六升二合五夕 講師

三斗七升五合 一間

三斗一升二合五夕 二間

二斗五升 三間

一斗八升七合五夕 四間

一斗二升五合 五間

一定燈油田六段内 油升合五入六斗二升四合定

一反五斗 奥坊

一反五斗

〔禪林坊〕

一反五斗 奥坊

一反五斗

千蔵坊

一反五斗 安田〔西蔵坊〕

一反五斗

千蔵坊

已上三石

一會新田条方坪付

合

五条四方 十二坪 三反卅

同十四坪 新溝代 六反卅

同十五坪

三反廿五

同廿三坪

九反卅五

同廿四坪

二反卅五

六条四方

三反卅五

已上参町

一同寄進田条坊

合

五条四方 十三坪

三反卅

同廿四坪

一反卅五

六条四方 十八坪

一反卅五

同九坪

一反卅五

同廿四坪

卅五

已上玖反卅

一同散田

合

三斗七升代 四斗七合

一反五 弥四郎

三斗代 一所三反廿五内一反五 孫大夫

一反十五 〔少納言〕 三斗九升 衛門

三斗代

一所卅五代

〔侍従公〕

三斗七升代 シノヘ 〔十郎兵衛〕

一所一反

〔實相坊〕

三斗三升代 一斗四升七合五夕

一所一反十五代 二斗八升一合

二斗八升一合

四斗代
一所冊五十八步
長砂一方
三郎兵衛
三斗八升

四斗代
一所冊代
〔新兵衛〕
三斗二升

四斗代
一所一反冊十八步内
四斗
一反 紺屋大夫
二斗六升
實相坊

三斗代
一所一反冊五十八步内
二斗二升五合
二斗五十八步
大郎大夫
同

五斗代
一所二反十代
六斗
大郎大夫
五斗

五斗代
一所一反
五斗
〔南〕〔助兵衛〕
〔新衛門〕

五斗代
一所二反
五斗
五郎左衛門
五斗

五斗代
一所一反冊内
一反五斗
大郎大夫
冊代四斗 二郎兵衛

五斗代
一所二反 一石
五郎左衛門
三斗

五斗代
一所冊代
三斗
大郎衛門
〔シノヘ〕

三斗代
一所一反十
三斗六升
大郎大夫
〔シノヘ〕

三斗代
一所一反内
三斗
冊代 二斗四升
紺屋兵衛
十代 六升
〔同少納言〕

五斗代
一所二反内冊
冊代
〔助兵衛〕
〔シノヘ〕
助大夫

三斗代
一所二反
一斗二升
五郎左衛門
〔シノヘ〕

冊代
〔助兵衛〕
〔掃部衛門〕

一反 三斗
五郎左衛門
西明分
〔宰相公〕

三斗代
一所七反内 十代不
一反 宰相
三斗
〔三斗玄譽〕

一反 三斗
〔實藏坊〕
一反 三斗
〔宰相公〕
〔實藏坊〕
〔待從公〕

一反 三斗
五斗四升
大郎左衛門
〔シノヘ〕

三斗代
一所一反廿五内
四斗五升
九郎衛門
塚

三斗代
一所二反五内
一反五
左衛門九郎
〔少納言〕

已上參町玖段冊五十八步
所當米

已上拾四石七斗三升四合五夕

如法經田作人

合

二反
多門坊

二反
〔中安田〕
五郎衛門
〔中安田〕
五郎衛門

一反
奥之坊

一反
〔中安田〕
五郎衛門
〔中安田〕
五郎衛門

一反
〔西安田村〕
〔歲頭田〕
小山

一反
多門坊

一反
左京公

一段
西安田
三郎兵衛

已上壹町

所當米 三石五斗

一南大門屋敷散田

合

一所十五 二斗定 淨光院

一所十五 中藏坊分 助五郎
新二郎

一所十五 中藏坊

一所十五 中藏坊分 左衛門大郎
衛門大郎

一所十五 東禪坊

一所十五 弁才坊分五升 作人 刑部衛門
二斗大夫分五升
中藏坊分

一所十五 多門坊

一所十五 宝生坊分 番匠
衛門五郎

一所十五 奥之坊分 七郎衛門

一所十五 東禪坊

一所十五 龍象坊

一所十五 弁才坊

一所十五 彦衛門

一所十五 除 承仕給

一分 弥勒坊

一分 五郎衛門
長徳庵

一所十五 半分畠替引 西明坊

一所十五 性善

一分内 又次郎大夫
藤内二郎

一分 又次郎大夫

一所十五 多門坊

一所十五 除 大歳免

一分 大郎三郎

一分 〔東蔵坊〕

一所十五 松坊

一所十五 除 道成

一分 東禅坊

一分 〔圓満坊〕

一所十五 慶門坊

一所十五 龍象坊

以上十七分

一所十五 奥坊

一所十五 〔松之坊〕

一私領畠分

已上七反十

除 冊五

一所冊代 宝蔵坊
屋敷 惣寺

一々廿代 松坊

殘定田 六反十五

一々冊代 淨光院

一々十代 神子ノコチ 彦次郎

所當米 四石貳斗

一々十五代 神子ノコチ 松坊

一々廿代 小山 惣兵衛

一三越畠地子代

一々廿代 東禅坊
又次郎大夫

一々廿代 長砂 〔實生坊〕

百文 北三郎衛門

百文内 五十文 北
五十文 二
コセ 郎衛門
三郎衛門

一々冊五代 千蔵坊

一所 淨光院前
在之 倉屋敷

一山王畠地子代

今福庄
又三郎

一所 西城坊屋敷
在之

〽百文

一所

一所 淨光院前
在之 倉屋敷

一寺百姓畠事

惣庄反錢寺領配分田數

拾參町貳反四十五代 但此内三反廿地頭方寄進乞
二反十 龍象坊
一反十 有久

一分 奥坊

一分 左近衛門

天満宮猿樂雜事帳寺庵

長福寺

二分 淨光院

一分 西明坊

圓長寺

五反

一分 圓満坊

一分 中蔵坊

圓長寺

五反

一分 北
四郎兵衛
孫四郎

一分 淨光院

圓長寺

五反

二 塩田浄観寄進下地帳

(冊二)

(表紙)

永正十二年乙亥八月日

塩田浄観寄進下地帳

鶴林寺

一 塩田浄観入道寄進田数事

合壹町八段廿代

一所三反五代

則恒名内本田在所七坪
此内五代者堀

一所老反拾代

則恒名内本田在所カニカ瀬
此内廿代私領

一所老反廿五代内

卅代者貞正名新田在所カニカ瀬
廿五代同名同前在所都塩内
廿代者私領畠同所

一所参段内

老反四十代則家本田在所ウス井ノ向
老反拾代私領畠同所

一所老反卅五代

則家名内本田
在所馬洗橋北爪

老段卅代

真綱名但在所
北又二郎作上田四郎衛門作

一所参拾代

在所馬洗橋下河田

一所老段拾代

有貞名内在所ウス井ノ向
小橋爪

一所参拾代

貞正名本田
在所賀茂西

田福寺	四反	観音寺	三反
長禪寺	五反	大田寺	二反
長徳寺	六反廿	安養寺	二反
長楽寺	一反	勝楽寺	一反
延光寺	二反	福林寺	一反
妙楽寺	七反	願念	五反
亀千代	五反	藤平次	五反
包守	五反	安主	五反
丹三郎	五反	刁寅	二反
重吉	二反	長吏代	二反
二和尚	二反	行事	二反
沙汰人	二反	大寺	五反
四王供	一町二反	燈油田	一丁二反
上六人	二反宛	中六人	一反卅宛
以下人数	一反十五宛	三昧供新田	七丁二反
右一反別能米四合白米二合宛	都合能米八斗 白米四斗		
一石二斗五番々帳可執渡者也			

皆永正十二年歲次乙亥八月日 年行事尊慶之 重而改之書写已十

一所壺反 則家名内本田但二町在之
在所賀茂社前ウスワキ

一所壺反拾代 有貞名内本田
在所影木西溝ノハタ

一所壺段廿五代 貞正名本田
在所賀茂西

一所壺反拾代 貞正名本田
在所賀茂前

一所參拾代 河田在所中在家前

以上壺町八反十五代 今者壺町八反五代

一反別七斗代線定
分米拾貳石八斗壺升

本役者壺町六反分

線定四石壺升合可有納所候 河田加

殘八石七斗九升八合 地利分線定

此内ニテ土米公事錢節季ニ可有納所候

慶与寄進下地
一所貳段參拾代 在所都塩内町数三在之
長田庄安弘名内私領田

分米壺石八斗貳升 線定

一口里村松林庵寄進下地長田庄余田村在之

一所壺反拾代内 德行名内在所賀茂東堀町公事物六斗六合
十代者余作本役二斗五升者本所一斗四升者地頭

一所壺反拾代内 十代者余作在所賀茂東公事錢六斗六合
本役二斗五升本所一斗四升者地頭

分米壺石六斗八升内 七斗八升本役線定

殘九斗地利分 線定
此内ニテ節季公事錢土米可被引候

舍利講出錢分

一 正月 廿七日	奥坊	一 二月 八日	西圓坊
一 二月 十八日	大寺	一 二月彼岸	慶門坊
一 三月 八日	寺出 多門坊	一 四月 八日	大寺
一 四月 十五日	持禪坊	一 五月 四日	東禪坊
一 五月 八日	安樂坊	一 六月 八日	東藏坊
一 七月 一日	淨光院	一 七月 八日	寶生坊
一 八月 廿六日	大寺	一 九月 八日	半分大寺
一 十月 廿四日	円満坊	一 十一月 八日	大寺
一 十月 八日	禪光坊	一 十二月 八日	大寺
一 八月十八日	大寺	一 三月 十五日	大寺
一 九月十八日	大寺	一 八月彼岸	大寺

一曼茶羅供預リ人数帳

岸方寄進分

二月分

谷之坊 実相坊 上野公
〔西圓坊〕 多門、卿公

同八月分「四百文宛預り」

〔中蔵坊〕

安樂坊

実相

侍従公

〔寶生坊〕

中將公

八月十七日 妙恩禪尼分

一分

圓滿坊 一分

口里村大郎衛門寄進分十一月三日

大寺

一分

東禪

卿公 一分

中蔵坊

八月廿一日 大寺 一分 下地在之候

〔五月〕

廿日

大寺 二分

智慶 四月十八日

妙殊禪定尼
淨貞上
大寺一分

八月彼岸 一分 大寺
一分 西明坊

正慶 八月彼岸

安樂坊一分
西明坊
玄秀分

十月十六日 七郎左衛門 アライ
十一月十六日 同人

三 鶴林寺寺料田惣目録

(表紙)

鶴林寺々料田惣目録

年行事

鶴林寺文書および史料目録

鶴林寺々領田目録

天文三年甲午八月日

合

理趣三昧

肆町伍段

法華三昧

参町玖段

月講田

壹町貳段

已上玖町六段

一勸請神田

参町

塔田

参町

聖靈院修理田

貳町六段

四王供田

壹町貳段

八講田

壹町六段

大般若田

壹町四段

大寺

八段

年頭

六段

長講田

四段

彼岸田

四段

大師供田

四段

常樂會田

壹段

六月會田

四段

承仕給田

貳段

舍利講田

貳段廿

上分田

卅五

安居供田

卅

法花経田

貳段

御佛供田

六段

佛名田

参段

燈油田

壹町貳段

宮大般若田

五段

薬師佛餉田

壹段

聖靈院佛餉田

壹段

堂行堂佛餉田

壹段

元節供田

参段

佛生會田

参段

恩損田

貳段

宮仁王供田 貳段 宮仁王供田 內慶 貳段
山王田 三段 宮仁王供田 貳段

已上貳拾壹町貳段卅五

一指坪名々 別紙有之

已上拾町卅代十八歩内 定五斗代 分米五十石三斗二升五合
損米拾七石一斗一升一合三夕

御佛供田 七段廿五 彼岸田 壹段

同御仏供田 七段 大乘経田 壹段廿
安居供田 壹段廿

残定米

卅三石二斗壹升四合五夕

右於田地所當米者毎年除水干風之

損亡之地撰定熟田名々ノ内認指出状渡

本所代官方仁令收取早然間名々 毎年 別紙ニ 記之

往古之例雖為五斗代依有損亡之煩

名主沙汰人百姓中評儀而近年以来

三斗三升宛定置之上者盡未来際

不可有相違者也於此田地者土米公

事錢本所而被免除之旁以異于他下

地也仍掟狀之旨如斯

年号月日

兩堂三昧供料田

六町四段内 九段 上二人
五町五段 末十人

惣別田數

拾六町四段卅代十八歩

一 承仕散田

合

一所壹段拾五代

在所留田
六斗五升

北五郎大夫 今ハ新五郎
○今ハ実相坊

一 壹段

在所留田
五斗

北「今ハ然圓坊」今ハ
五郎左衛門 西圓坊

一 四拾代

在所ハヤ
四斗

宝生坊

一所壹段拾

在所石町
六斗

*「西明坊」
*「北宰相公」

一 貳段

在所留田
壹石

*「少納言公」
*「實相坊」

一 四拾代

在所ミマタ溝ノ東
四斗

慶門坊「谷之坊」

一 四拾代

在所ミマタ溝ノ西
四斗

如意坊

一 四拾代

在所留田
四斗

*与大郎「細田五郎衛門拘」

一所壹段

在所石町
五斗

*助衛門「坊領付
吉祥房」

一 貳段拾

在所留田
壹石一斗

宝生坊

一 四拾代

在所ハッヘ
四斗

「今ハ実相坊ニ有」北
三郎衛門

一 廿五代

在所アラキノ前
二斗五升

長田村
九郎衛門

一々四十代

在所橋崎
四斗

*長田村
九郎兵衛
玄祐

一所壹段

在所瀨口
五斗

持禪坊

一々廿五代

同所
二斗五升

長田村
戒藏寺

一々壹段卅代「内」

在所北山崎「廿代」
八斗「内四十代四斗八」

口里村
北之坊
大郎兵衛
遍照院

一々壹段廿代「内」

同所
七斗

*長田村
衛門三郎
九郎兵衛

一々廿代

在所橋崎
二斗

多門坊

一所五代

在所大サ
五升

奥之坊

一々壹段

在所宮北
五斗

多門坊

一々壹段

同所
五斗

*少納言
弁才坊内
少式公

一々廿代

在所瀨口
二斗

圓満坊

○ 一々壹段拾五代

在所小賀原
六斗五升

殿領
一反西蔵坊
十五代
実蔵坊

一所拾代

一斗

坊領ノ關
龍象坊

一々拾代

壹斗

同
禪林坊

一々壹段 此内五代不

ハケンキヤウ
四斗五升

「作人五郎兵衛」
中方

一々卅代

在所中安田堂北
三斗

実相坊

一々拾五代

在所ハマロ
一斗五升

長田村
九郎衛門

一所壹段内 十代
十五代

在所ハヤ
五斗内

北
六郎衛門
三郎衛門
九郎

一々壹段

在所橋崎
五斗

*口村
次郎兵衛
「正在坊西蔵坊」

一々五代

五升

坊領關
常樂坊

一々五代

五升

同
西城坊

一々壹段廿代

在所番匠田
七斗

弁財坊

一所二段

在所中村
一石

坂本
四郎左衛門

一々壹段

在所大田寺前
壹石三斗五升

圓満坊

一々廿五代

在所木守
二斗五升

奥之坊

一所壹段拾

在所石町
六斗

坂本
五郎衛門

一々壹段拾五

在所宮東
六斗五升

*シノへ
五郎左衛門
「安樂坊」

一々壹段

在所宮北
五斗

多門坊

一々廿代

在所安田前
二斗

*浄善
圓満坊

一々壹段

在所石町
五斗

如意坊

一所廿五代

在所ハッへ
二斗五升

北
五郎大夫

一々卅代

在所ヒラ田
三斗

*細田
大夫二郎大夫
「圓満坊」

一々壹段

在所ヒラ田
五斗

*坂本
大郎兵衛
「新左衛門」

一々壹段

在所石町
五斗

坂本
「今ハ八九也」
○助衛門

一々壹段

在所石町
五斗

北
中蔵坊
九郎衛門

一所壹段

在所坊垣内
五斗

*〔九郎左衛門〕
普賢院

一所廿五代

在所坊垣内
二斗五升

東禪坊

一々四拾五代

在所石町
四斗五升

〔實相坊〕

一々壹段

在所石町
五斗

坂本
大郎兵衛

一々二段

在所ミマタ
一石

奥之房

一所壹段卅代

在所木守
八斗

*〔中藏〕
房 普賢院

一々壹段

在所石町
五斗

*持禪坊 西藏坊

一々十八步

在所中安田北
二升五合

千藏坊

一々廿代

在所中村北
二斗

坂本 今ハ八九也
助衛門

一々壹段

在所中村北
五斗

坂本 今ハ道忠持
九郎衛門

一所壹段

在所安田前
五斗

谷之房

一々壹段五

在所安田前
五斗五升

〔通照院〕

一々二段拾

在所カナカ坪
一石一斗

龍象坊

一々壹段拾

在所カナカ坪
六斗

口里
〔源二郎大夫〕

一々拾五代

一斗五升

坊領關 西明坊

一所廿五代

在所タカタ
二斗五升

東藏坊

一々壹段

在所美藏坊南
五斗

東禪坊

一々壹段

在所ヒラタ
五斗

〔禪光坊〕

一々卅代

在所ヒラタ
三斗

*助衛門 禪光坊

一々壹段

在所留田
五斗

北 新衛門

一所卅代内 十代不

在所大塚本
二斗

坂本 大郎兵衛

一々二段

一石

常樂坊々領

一々二段

一石

彌勒坊々領

一々壹段

在所石町
五斗

北 今ハ西圓坊 西圓坊
〔西圓坊〕 五郎左衛門

一々壹段

同所
五斗

北 源四郎 吉祥坊々領

已上湊町壹段卅五代十八步
定米參拾五石七斗貳升五合

坊領引テ定米
〇 卅貳石 貳斗二升五合内 (花押)³⁸ (花押)³⁹

定米
卅石五斗七升五合。六斗五升坊領引 (花押)⁴⁰

一除

一所三段内

一反 唄師
二反 承仕給

一所壹段卅 承仕給

一所六段

御佛供田

一所卅代 門敷

一所壹段

行事田

一所壹段廿五代 房敷

一所卅五代 濱 成

一所廿五代 古 不

一所壹段 山王敷

一所拾代 堀 林

一所貳段 南大門屋敷替地
在所サイミ塚 小山方

一所壹段 常行堂 酒 田

四町貳段 坊 領

一所廿五代 坊敷畠替地 安樂坊

同 一所廿五 圓滿坊

同 一所廿五 東禪坊

同 一所廿五 奥之坊

同 一所廿五 以上坊敷之内 安田次郎大夫

一所廿五内 承仕給分 十五代
十代

已上拾四町壹段卅五代十八歩内

除 六町四段卅五代

残定田 湊町七段十代十八歩

定米 三拾六石四斗貳升五合

一寄進散田 「地頭方寄進分雑色銭之事
一段別拾貫宛毎年納所」

合

一所壹段拾五代 在所北賀原地頭一分方
六斗五升

東禪坊

一く壹段 在所細田南地頭分
五斗 二方寄進

西明坊

一く壹段 地頭方寄進分一方
四斗三升七合五夕

實相坊

一所一段 公文寄進分
五斗

千藏坊

一く二段 長田庄公文寄進
一石

圓滿坊

一く壹段 長田庄公文寄進
五斗

北〔圓滿坊〕
〔圓滿坊〕

一く壹段 菅野方寄進
五斗

*又次郎大夫「安養院」

一く壹段 同寄進
五斗

*余田村 彦四郎「禪光坊」

一所壹段 菅野方寄進
五斗

*余田村 助二郎「安養院」

一所三段 浦上美作守寄進
六斗代 一石四斗四升寺升定

篠原 徳丸名内

一く壹段十代 長田方寄進
六斗

*西明坊 〔浄光院〕
〔實相公〕

一く壹段卅代 長田方寄進
九斗

禪光坊

一く壹段 菅野方寄進
五斗

弁才坊

一所壹段 長田村五郎大夫寄進
五斗

〔九郎衛門〕 京方に、〔實生坊〕
恩損 〔常樂坊〕

一く二段 越生二方寄進
在所安田前

浄光院

一く二段拾 新野邊五郎 在所小山前護摩田「武行名恩損」
左衛門寄進 一石三斗七升五合「本役一反別百十三貫宛」

如意坊

一く壹段 新野邊五郎 在所石町「末近名恩損」
左衛門寄進 五斗「本役百十三貫」

〔如意坊〕

一く卅五代 新野邊衛門 在所十五所前「重成名恩損」 東安田
大夫寄進 三斗五升 大升定「本役七十九貫」

*三郎兵衛「庭草給」

一所壹段 在所數田 本役三斗五升出
加地子二斗

北五郎衛門 □ □

一く壹段 新野邊五郎 重成名在所タカノ邊
左衛門寄進 五斗「本役百十三貫」

〔實生坊〕

一く拾五代 長田村九郎兵衛寄進
在所竹力ハナ 壹斗五升

千藏坊

一く壹段 越生方二方寄進
五斗

奥之坊

一く壹段 同寄進 一方分
四斗

〔龍左京公〕

一所壹段十「一反八恩損」在所十五所西
「道久名」七斗五升「本役」

「反八恩損」在所十五所西
「道久名」七斗五升「本役」

番匠 次郎左衛門「谷之坊」

一所壹段十 十代八諸公事無之候「一反八恩損」
長田村九郎衛門寄進「重正」
七斗五升

「新衛門」
「浄光院」

一所卅代 口里村弥二郎大夫寄進
三斗

「安田弥九郎」
「口里」五郎大夫「西城坊」

一所壹段 舟橋神左衛門方寄進
六斗二升五合

「西明坊」「北新衛門」

一所壹段 地頭一方寄進 神樂田
五斗

「西明坊」「北新衛門」

一所壹段 貞祐寄進有久名内恩損 百十三貫
六斗二升五合

多門坊

一所壹段内 五斗二升五合代七合升定
在所江田坪

西田坊

一所壹段 智慶分 在所アラウチ
六斗二升五合

宝生坊

一所二段内 十代不 下司分長田庄下村
法藏寺寄進

西圓坊

一所壹段 在所賣茂下 法藏寺寄進長田庄公文「分」
加德分一斗六升五合六分 寺升

新衛門

一所壹段 越生方一方分内 正慶寄進分
一斗八升七合五夕 寺升 加德分

「北新兵衛」

一所壹段 在所竹下 地頭二方寄進分
五斗「内半分小山備前守納所堀道分」

「新兵衛」

一所壹段拾 法藏寺寄進分「次郎丸名内」
七斗五升「本役百廿五貫」

禪林坊

一所四拾五代 小山妙珠分「六」
五斗三升二合五夕

九郎左衛門「普賢院」

一所四拾代 年貢諸公事無之候 梅木之下
五斗六升五合五夕

「持禪坊」

一所壹段 在所アラウチ 六斗二升五合

「細田喜三郎」

一所貳段 在所ヨナタ田 壹石貳斗 寺升定

西明坊

一所壹段 抹香科太子堂 加德 貳斗七升五合

一所壹段 請下地 在所東安田南 松林房分 寺升定 賣替分下地也

「新衛門」

一所壹段 恩損錢百四貫出 重正 五斗五升

「西明坊」「多門坊」

一所壹段 梶原駿河守殿分

「西城坊」

一所三段 大升定 廿五代 シヤウシ作 分米參斗五升七合五夕

「松之坊」

一所 大升定 廿五代 シヤウシフケ 分米參斗五升七合五夕

「松之坊」

一所 大升定 四十代 フケシ 分米六斗八升

「松之坊」

一所 大升定 四十代 フケシ 分米六斗八升

「松之坊」

寺升定以上二石九斗五升六合二夕

「松之坊」

壹所一段 請下地 定久名内 在所大塚ノ西二有

「松之坊」

一所壹段内 廿五代 内十五代堀三不引殘分十代二〇ハ 一方分

「松之坊」

一所壹段 廿五代 貳斗「五」升 在坪神樂田

「松之坊」

一所壹段 五斗 末国公田也 寄進泉公也

「松之坊」

一所壹段十代 恩 七斗五升 万供田 神田分 寄進

「松之坊」

一所四十代 恩 六斗 同 同 「禪光坊」九郎衛門

「松之坊」

一所壹段 加德分 三斗一升二合五夕 道性 寄進 作 口里 二郎大夫

「松之坊」

定米 抹香田 庭草給引テ也

「松之坊」

子 卅石貳斗七升四合三夕 慶算「花押」

「松之坊」

六斗二升五合代
一所五段 包守講田
此内一段講代引

西明坊 定米貳石五斗

五間一答衆配分

壹斗二升五合 長吏坊 五斗六升二合五夕 学頭

五斗六升二合五夕 講師 三斗七升五合 一問

三斗一升二合五夕 二問 二斗五升 三問

一斗八升七合五夕 四問 一斗二升五合 五問

一定燈油田六段内 油升合五入六斗二升四合定

貳段 奥之坊 壹段 禪林坊

〔壹〕貳段 千蔵坊 壹段 〔正住坊〕

壹段 北ハシ * 禪林坊

已上三石

一會料田条方坪付

合

五条四方 十二坪 三段卅 同十四坪 新漢代 六段卅

同十五坪 三反廿五 同廿三坪 九段卅五

同廿四坪 二反卅五 六条四方 三反卅五

已上三町

一同寄進田条坊

合

五条四方 十三坪 三段卅 同廿四坪 壹段卅五

六条四方 十八坪 一反卅五 同九坪 壹反卅五
同廿四坪 卅五

已上玖段卅

一同散田

合 一所壹段拾五 三斗代 三斗九升

一々壹段五 三斗代 三斗三升

一々壹段五 三斗七升代 四斗七合

一々四拾五代 三斗代 二斗七升 〔但慶運庵分〕

一々壹段拾五 三斗代 三斗九升 *宝生坊 浄光院

一々卅五代 三斗代 二斗一升 *實相坊 慶運庵

一所壹段 三斗七升代 *〔シノヘ助三郎〕 正香庵

一々壹段 三斗七升代 實相坊

一々四拾五代 四斗代 三斗六升 シノヘ 十郎兵衛

一々卅五代十八步 三斗三升代 *イカルカ 八郎兵衛 慶運庵

一々廿五代 三斗七升代 *イカルカ 四郎兵衛 正香庵

一所壹段拾五代 三斗七升代 四斗八升一合 シノヘ中 左近衛門

一々廿代 四斗五升代 一斗八升 塚 九郎衛門

一々四拾五代十八步 四斗代 三斗八升 實生坊 〔祐永〕 衛門

一々四拾代	四斗代	三斗二升	*實藏坊『安樂坊』	一々壹段	三斗代	三斗	*西明坊『淨光院』
一々壹段卅代十八步内	卅代十八步	二斗六升	*実相坊 如意坊『實相坊』	一々壹段	同	三斗	〔淨光院〕
一所卅五十八步	三斗代	二斗二升五合	*シノヘ 〔大郎衛門〕『侍従公』	一々壹段内	三斗代	三斗	實相坊
一々壹段	三斗代	三斗	*シノヘ 次郎兵衛『侍従公』	一々二段内	十代不 五斗四升	三斗	*實藏坊『安樂坊』
一々壹段十代	五斗代	六斗	*シノヘ 九郎兵衛 大郎大夫 石兵衛	一所壹段	三斗代	三斗	シノヘ 〔藏女〕安樂坊『普賢院』
一々壹段内	廿五代 廿五代	五斗代	*シノヘ 〔助衛門〕『普賢院』	一々卅五代十八步	三斗代	二斗二升五合	塚 九郎衛門
一々壹段	五斗代	五斗代	同 〔西明房〕	一々卅五代十八步	三斗代	二斗二升五合	*シノヘ 助衛門『舟橋左大夫』
一所一段	五斗代	五斗代	シノヘ 新左衛門	一々壹段拾代	三斗代	三斗六升	*東藏坊 〔侍従公〕
一々四拾代	五斗代	四斗	同 次郎兵衛	一々壹段五	同	三斗三升	
一々二段	五斗代	一石	同 *大進公『慶運庵』	已上四町十八步			
一々卅代	五斗代	三斗	*同 玉藏庵『同慶運庵』	定米 以上拾四石九斗二升五合五夕			
一々壹段十	三斗代	三斗六升	同 〔祐泉庵〕				
一所卅代	三斗代	二斗四升	*シノヘ 紺屋五郎左衛門『安樂坊』	一如法經田作人			
一々廿五代	五斗代	二斗五升	*シノヘ 助大夫『慶運庵』	合			
一々四拾代	五斗代	四斗	同 〔實相坊〕	貳段 多門坊	貳段		〔東藏坊〕
一々四拾代	五斗代	四斗	*同中兵衛 〔同中兵衛〕『侍従公』	一段 奥之坊	一段		*彌勒坊『龍象坊』
一々廿代	三斗代	一斗二升	同 〔淨光院〕	一段 歲頭田『宝生坊』	一段		〔西城坊〕
一所壹段	三斗代	三斗	シノヘ 六郎左衛門	壹段 *実藏坊『安樂坊』	壹段	*西安田 三郎兵衛『禪光坊』	

已上壹町

所當米 三石五斗

一南大門屋敷散田

合

一所十五 二斗定 淨光院

一所十五 中藏坊

一所十五 東禪坊

一所十五 多門坊

奥之坊拘 半分 秀慶

一所十五 〔奥坊分 〔七郎衛門〕 半分直請 与三衛門

一所十五 龍象坊分 慶音

一所十五 〔内 〔半分 〔淨光院 〔東禪坊

一所十五 半分畠替引 西明坊

一所十五 多門坊 寶生坊

一所十五 松之坊 〔淨光院

一所十五 慶門坊

一所十五 奥之坊

已上七反拾

除卅五

殘定田 六段拾五

所當米 四石貳斗

一三越畠地子代

百貫 〔北正善屋敷分 三郎衛門

一山王畠地子代

○百貫 今福庄 又三郎

一寺百姓畠事

合

一分 奥之坊

二分 淨光院

一分 中藏坊

一分 〔北 〔神左衛門 〔五郎大夫 〔吉祥坊弟子 大貳公

一分 〔大寺 〔弥勒坊 〔吉祥坊 〔屋敷分出

一分内 又二郎大夫 五郎左衛門

一分 *又二郎大夫 〔禪林坊 一分

一分 東禪坊

以上十七分

〔百貫内

〔五十貫

〔五十貫

〔二郎衛門 〔三郎衛門 〔衛門

北 左近衛門

西明坊

圓滿坊

淨光院

五郎衛門 長徳庵

又二郎大夫

〔東藏坊

一私領畠分

合

二所分
一所冊代 宝生坊 惣寺

一〇廿代 松之坊

二所分
一〇冊代 淨光院

一〇十代 神子ノコチ 彦二郎

一所十五代 神子ノコチ 松之坊

一〇廿代 小山惣兵衛 淨光院

一〇廿代 東 禪坊 又二郎大夫

一〇廿代 長砂 〓三郎兵衛 〓宝生坊

一〇卅五代 千蔵坊

一〇 〓西城坊屋敷 在之候

一〇 〔淨光院東在之百貫地子〕 倉屋敷

惣庄反錢寺領配分田數

拾三町貳段四十五代 但此内地頭方寄進在之候 二反十 龍象坊 一反十 有久

天満宮猿樂雜事帳寺庵

圓長寺	二反卅	長福寺	五段
田福寺	四反	觀音寺	三反
長禪寺	五段	大田寺	二反
長德寺	六段廿	安養寺	二反
長樂寺	一反	勝樂寺	一反
延光寺	二反	福林寺	一反
妙樂寺	七反	願念	五段
龜千代	五段	藤平次	五段

包守 五反

安主 五段

丹三郎 五反

〓實 二反

重吉 二反

長吏代 二反

二和尚 二反

行事 二反

沙汰人 二反

大寺 五段

四王供 一丁貳反

燈油田 一丁二反

上六人 二反宛

中六人 一反卅宛

以下人數 一反十五宛 三昧供料田 七丁二反

右一段別能米四合白米二合宛都合 能米八斗 白米四斗

羈林寺所務張

皆天文三年甲午八月日 年行事慶什之 重而改之書写早

寄進恩損本役事

武行名	二段十代	貳百四十八貫	納所
末近名	壹段	百十三貫	同
重成名	一段卅五代	百九十貫	同
有久名	一段	百十三貫	同
次郎丸名	一段十代	百廿五貫	納所

一段 京万百廿貫

一段 百

○右同名

貳段 貳百廿六貫

本役四百貫取候
同

正元名

壹反 貳斗三升五合

請

重正名

壹反 百四貫

納所大慈庵分

定久名

壹反 貳斗三升五合 土米加テ
公事錢 春秋廿貫

請

淨觀分寄進作人々数張

合

壹段

「今ハ中納言殿」
実相坊 壹段五代

卅代

太輔公 三郎衛門

貳段「内卅代」

「同三郎衛門」
北助衛門

三段

壹段五代

「持禪坊」

卅代

奥之坊

卅代

北「新二郎」
北弥九郎 孫衛門

壹段拾

禪林坊

壹段拾

北「北五郎衛門」
十五代 北六郎兵衛

「壹段」

六郎兵衛

三郎衛門

卅代 北村又四郎

寺升
以上八石七斗五升

買地分

◇(以下後補)

壹段

大升定 六斗 南備後村 太郎兵衛

四十代

大升定 四斗五升 同 村 又次郎

鶴林寺文書および史料目録

一段

請 包貞
大升 五斗

新野辺 弥衛門

一反卅代内

三十代私領 八斗内
大升 年貢 本役 一斗七升五合可出
殘定大升六斗二升五合

「東園坊拘」
光明院拘

四十代私領

公事共 五斗納

「光明院」

一反

大升 五十 納

「作人北栗津源衛門」承仕給
長田庄〇谷之坊上 作
「新兵衛」八升

一所

大升 四斗内 油用灯可出 北在家田福寺 一斗八升
「実相坊」七升 三衛門
新兵衛 七斗四升 一斗四升内

一反 知職 大升 十六貫

五斗

「瓦口孫」左衛門
栗津村

一反 玄祐寄進 大升 則

五斗

安樂坊

一反 林松寄進 大升

五斗

今松之坊 実相坊

一反

大升 五斗

常樂坊弟子 大夫公

大升定「五斗」
以上五石

買地分

一段

大升定 六斗

南備後村 大郎兵衛

四拾

大升定 四斗五升

同 村 又次郎

壹段 請

包貞

シノへ 弥衛門 作人
本役

一段卅代内

三十私領

年貢 八斗内 一斗七升五合可出
備後 掃部紺屋

四十代 私領公事共

五斗納

北 助衛門
助兵衛

一段

大升 五斗三升納

長田庄 谷之坊 上錢

。一所 大升 四斗内 油用灯可出 北 在家村有之
一段 大升 五斗 栗津西 北新左衛門 知藏下地也 北栗津 イヲケン 作人 新左衛門

四 刀田鶴林寺檢地帳

(冊四)

◇ (此の文書丁の継目ごとに黒印を押す)

(表紙)

(割印)

(割印)

(割印)

慶長六年

賀古郡内刀田鶴林寺御檢地帳

九月廿日

上 七畝九步	壹石四斗六升	東圓坊
上 貳畝八步	四斗五升四合	浄光院
□ 畝拾貳步	壹石貳斗八升	同人
□ (畝) 五步	壹石六斗三升三合四夕	同人
□ 六畝四步	壹石貳斗貳升六合六夕	西明院
上 六畝廿六步	壹石三斗七升三合三夕	實藏坊
上 六畝十貳步	壹石貳斗八升	正住坊
上 七畝七步	壹石四斗四升七合	玉泉坊
上 七畝十步	壹石四斗六升六合七夕	宝生坊
□ 八畝廿四步	壹石七斗六升	円満坊

□ (反) 貳畝五步	貳石四斗三升三合三夕	持禪坊
□ (畝) 廿二步	壹石五斗四升六合七夕	東藏坊
上 三畝十五步	七斗	中照坊
上 五畝二步	壹石壹升三合三夕	禪林坊
上 壹反貳畝廿七步	貳石五斗八升	*歡喜坊「中藏坊」
上 壹反三畝三步	貳石六斗貳升	実相坊
□ (廿) 五步	壹石四斗壹升	奥之坊
□ 四步	壹石五斗八升四合「長田ノ六郎右衛門ニ入」	*安樂坊 禪林坊
□ 七畝廿四步	壹石四斗四合	*奥之坊
中 八畝	壹石四斗四升	松之坊
中 壹反九畝六步	參石四斗五升六合	東禪坊
中 三畝十步	六斗	寶生坊
上 壹反四畝九步	貳石八斗六升	圓滿坊
□ 五畝廿步	壹石壹斗三升三合三夕	奥之坊
□ 六斗	壹石六斗	持禪坊
□ (畝) 廿四步	壹石四斗四合	奥之坊
上 六畝廿九步	壹石三斗九升三合四夕	実相坊
上 七畝十五步	壹石五斗	東藏坊
上 八畝十壹步	壹石六斗七升三合三夕	正善
中 五畝廿六步	壹石五升六合	*西明院「中藏坊」

中	壹段貳畝十三步	貳石貳斗三升八合	龍藏坊
中	六畝五步	壹石壹斗一升	禪光坊
中	七畝十二步	壹石三斗三升二合	実藏坊
□	畝七步	壹石四斗八升二合	泰之坊
□	畝七步	壹石五斗六升	十地坊
□	畝九步	壹石六斗七升四合	龍象坊
中	壹反五畝貳十步	貳石八斗二升	実相坊
中	三畝廿五步	六斗九升	禪光坊
中	四畝十四步	八斗四合	善左衛門
上	七畝廿貳步	壹石五斗四升六合七夕	多門房
□	畝八步	壹石四斗八升八合	奥之坊
□	壹畝十六步	貳石参斗合六夕	禪光坊
□	反壹畝十四步	貳石貳斗九升三合五夕	実藏坊
上	壹反四畝貳拾步	貳石九斗三升合三夕	淨光院
上	壹段六畝	参石貳斗	禪林坊
上	壹段四畝貳十步	貳石九斗三升三合三夕	常樂坊
上	七畝十六步	壹石五斗六合六夕	円満房
□	畝十步	壹石四斗六升七合	太郎右衛門
□	四畝廿六步	貳石九斗七升三合三夕	正住坊
□	步	四升七合九夕	禪林房

上	壹反六畝廿九步	参石三斗九升三合三夕	千藏坊
□	段廿九步	貳石壹斗九升三合三夕	正住坊
□	畝三三歩	壹石八斗八升六合六夕	常樂坊
□	貳畝十三歩	貳石四斗八升七合	甚兵へ
上	四畝十一歩	八斗七升三合三夕	金剛院
中	三畝廿二歩	六斗七升二合	十地坊
上	四畝三歩	八斗二升	与右衛門
上	四畝八歩	八斗五升三合三夕	与十郎
□	畝八歩	七斗八升六合六夕	新右衛門
□	畝八歩	九斗二升	善右衛門
□	廿五歩	六斗九升	十地坊
上	八畝十一歩	壹石六斗七升三合三夕	安樂坊
上	三畝十二歩	六斗八升	宝生坊
上	八畝七歩	壹石六斗四升六合六夕	吉祥坊
中	壹段貳畝	貳石壹斗六升	持禪坊
□	畝十歩	壹石四斗六升六合七夕	十地坊
□	畝十歩	壹石貳升	与右衛門
□	畝十歩	八斗六升六合七夕	宝生坊
上	九畝貳十五歩	壹石九斗六升六合七夕	持禪坊
上	七畝十一歩	壹石四斗七升三合三夕	千藏坊

上	九畝貳十四步	壹石九斗六升	*宝生院 『宝生坊分西屋』
上	七畝七步	壹石四斗四升六合 ^(六) 夕	同人
□	□ ^(貳) 十三步	壹石五斗五升三合三夕	禪林坊
□	□ ^(貳) 步	壹石七斗壹升九合九夕	歛喜坊
□	□ ^(貳) 壹畝十七步	貳石三斗一升三合三夕	東禪坊
上	壹段五畝十六步	參石壹斗六合六夕	中照坊
上	五畝廿六步	壹石壹斗七升三合六夕	彦太夫
上	七畝	壹石四斗	持禪坊
上	五畝十六步	壹石壹斗六合六夕	千藏坊
□	□ ^(畝) 十四步	壹石貳斗九升三合三夕	光太夫
□	□ ^(廿) 九步	五斗三升四合	常樂坊
□	□ ^(畝) 五步	八斗三升三合三夕	宝生坊
上	壹段八畝十一步	參石六斗七升三合三夕	安樂坊
上	八畝十九步	壹石七斗貳升六合七夕	*勸喜坊 『中藏坊』
上	八畝十步	壹石六斗六升六合六夕	東圓坊
上	八畝十六步	壹石七斗七合	東禪坊
□	□ ^(段) 貳畝十八步	貳石五斗二升	淨光院
□	□ ^(畝) 畝	貳石八斗	*長田ノ 惣右衛門 『中藏坊』
□	□ ^(段) 五畝五步	參石三升三合三夕	歛喜坊

上	壹段貳畝	貳石四斗	淨光院
上	壹段五畝五步	參石三升三合三夕	金剛院
上	七畝廿八步	壹石五斗八升六合七夕	玉泉坊
□ ^(上)	七畝十八步	壹石五斗貳升	吉祥坊
□	□ ^(上) 六步	壹石四斗四升	安田ノ 七郎兵へ
□	□ ^(畝) 畝八步	四石六斗五升三合三夕	北在家村ノ 新兵へ
□	□ ^(畝) 拾四步	壹石四斗九升三合三夕	奥ノ坊
上	貳畝廿四步	五斗六升	九七郎 東圓坊
上	七畝廿四步	壹石五斗六升	正住坊
上	貳畝十三步	四斗八升六合六夕	奥ノ坊
上	六畝廿三歩	壹石三斗五升三合三夕	正住坊
□	□ ^(畝) 十八歩	壹石壹斗一升九合九夕	北在家 新兵衛
□	□ ^(畝) 歩	六斗	同人
□	□ ^(畝) 九歩	四斗六升	東圓坊
□	壹段三畝	貳石六斗	安田ノ 宗十郎
上	五畝廿歩	壹石壹斗三升三合四夕	長田村 惣右衛門
上	四畝五歩	八斗三升三合三夕	安田村 与三衛門
□	□ ^(七) 畝廿三歩	壹石五斗五升三合三夕	同村 善三郎
□	□ ^(上) 合六町七段六畝十五歩	以上	

□合参段六畝七步

中合壹町八段九步

下合九步

田数合八町九段三畝十步

屋敷方

貳畝貳十步

□(畝)十五步

□□□四步

□(畝)六步

貳畝貳十五步

六畝十二步

壹畝廿四步

五畝廿六步

□畝

□□貳十二步

□畝貳十步

三畝十四步

三七六步

三畝

四畝

□畝十步

□□十四步

□畝八步

三畝十步

貳畝廿八步

参畝八步

四畝

三畝十八步

□□

□畝六步

三畝十步

三畝貳十二步

四畝八步

五畝一步

□(貳)畝十二步

□畝廿四步

貳畝廿步

合壹町貳段七畝三歩

分米拾七石七斗九升四合

禪林坊

弥勒坊

吉祥坊

常樂坊

金剛院

西城坊

圓滿坊

持禪坊

東圓坊

多門坊

禪光坊

安樂坊

東禪坊

実相坊

龍象坊

東藏坊

正住坊

畠方

松之内
壹畝五歩

壹斗六升三合五夕

東圓坊

〔倉〕
畝十八歩 寶堂坊屋敷二郎右衛門殿理三而寺ノ内へ入 浄光院

〇〇〇貳歩

三斗三升五合九夕

歛喜坊

合五畝五歩

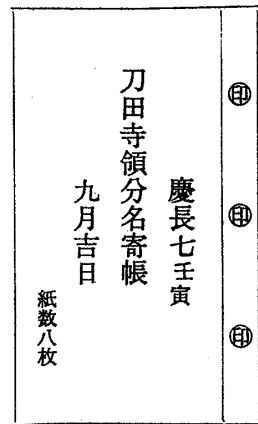
分米七斗貳升三合三夕

惣合百九拾参石六斗五升四合

紙数上紙共二拾三枚

五 刀田寺領分名寄帳

(表紙)



上 七畝九歩

壹石四斗六升

東圓坊

〔畠〕壹畝五歩

壹斗六升三合五夕

同人

上 二畝廿四歩

五斗六升

同人

上 二畝九歩

四斗六升

同人

合 貳石六斗四升三合五夕

上 六畝拾二歩

壹石二斗八升

浄光院

上 壹反二畝

貳石四斗八升

同人

〔畠〕壹畝拾八歩

貳斗二升四合

同人

合 参石九斗四合 〔内屋敷分引、但貳斗二升四合也〕

上 壹段四畝廿歩

貳石九斗三升三合三夕

圓滿坊

合

上 六畝四歩

壹石二斗二升六合四夕

遍明院

中 五畝廿六歩

壹石五升六合

同人

合 貳石貳斗八升二合四夕

上 六畝貳拾六歩

壹石三斗七升三合三夕

実藏坊

上 壹反壹畝拾四歩

貳石貳斗九升三合六夕

同人

中 七畝拾二歩

壹石三斗三升二合

同人

合 四石九斗九升八合九夕

上 六畝拾二歩

壹石貳斗八升一夕

正住坊

上 壹反四畝廿六歩

貳石九斗七升三合四夕

同人

合 四石貳斗五升三合五夕

上 七畝七歩

壹石四斗四升七合

玉泉坊

上 壹反三畝

貳石六斗

*同人
〔安樂坊〕

合 四石四升七合

上 四畝拾歩

八斗六升六合七夕

宝生坊

〔中〕 三畝拾歩	六斗	同人
〔上〕 七畝七歩	壹石四斗四升六合七夕	同人
〔上〕 四畝五歩	八斗三升三合三夕	同人
〔上〕 三畝拾二歩	六斗八升	同人
合	四石四斗二升六合七夕	
〔上〕 壹反二畝五歩	貳石四斗三升三合三夕	西園坊
以上		
〔上〕 七畝廿二歩	壹石五斗四升六合七夕	東藏坊
〔上〕 七畝拾五歩	壹石五斗	同人
合	參石四升六合七夕	
〔上〕 三畝拾五歩	七斗	中照坊
〔上〕 壹段五畝拾六歩	三石壹斗六合七夕	同人
合	參石八斗六合七夕	
〔中〕 壹段九畝六歩	三石四斗五升六合	東禪坊
以上		
〔上〕 五畝二歩	壹石一升三合三夕	禪林坊
〔上〕 壹段六畝	三石二斗	同人
合	四石二斗一升六合六夕	
〔畠〕 二畝拾二歩	三斗三升五合九夕	歡喜坊
〔上〕 壹段五畝五歩	三石三升三合三夕	同人

〔上〕 五畝	壹石	同人
合	四石三斗六升九合二夕	
〔上〕 六畝廿九歩	壹石三斗九升三合四夕	実相坊
九畝九歩	壹石六斗七升四合	同人
合	參石六升七合四夕	
〔中〕 七畝廿五歩	壹石四斗一升	奥之坊
〔中〕 七畝廿四歩	壹石四斗四合	〔同〕人 〔松之坊〕人
〔上〕 七畝拾四歩	壹石四斗九升三合三夕	〔奥〕坊 同人
合	四石三斗七合三夕	
〔中〕 八畝七歩	壹石四斗八升二合	多門坊
以上		
〔中〕 八畝貳拾四歩	壹石五斗八升四合	安樂坊
〔上〕 八畝拾一分	壹石六斗七升三合三夕	同人
〔上〕 五畝拾壹歩	壹石七升三合三夕	同人
合	四石三斗三升六夕	
〔上〕 八畝	壹石六斗	持禪坊
〔上〕 七畝	壹石四斗	同人
〔上〕 九畝廿五歩	壹石九斗六升六合七夕	同人
合	四石九斗六升六合七夕	

「上」 一反四畝貳拾步 貳石九斗三升三合三夕 常樂坊

「上」 九畝拾三步 壹石八斗八升六合七夕 同人

合 四石八斗二升

「中」 壹段二畝拾三步 貳石二斗三升八合 龍象坊

「中」 三畝廿五步 六斗九升 同人

合 貳石九斗二升八合

「上」 壹段五畝五步 參石三升三合三夕 金剛院

以上

「上」 壹段壹畝拾六步 貳石三斗六合七夕 禪光坊

「中」 六畝五步 壹石一斗一升 同人

「中」 八畝 壹石四斗四升 同人

合 四石八斗五升六合七夕

「中」 三畝廿五步 六斗九升 十地坊

「中」 三畝廿二分 六斗七升二合 同人

合 壹石三斗六升二合

「上」 壹段六畝廿九分 三石三斗九升三合三夕 千藏坊

「上」 五畝拾六分 壹石壹斗六合六夕 同人

合 四石四斗九升九合九夕

「上」 五畝廿步 壹石一斗三升三合三夕 善坊

「上」 壹段二畝拾八分 貳石五斗二升 同人

淨光院分

「上」 八畝七步 合 參石六斗五升三合三夕 吉祥坊

「上」 七畝拾八分 壹石五斗二升 同人

合 參石壹斗六升六合六夕

* 壹段三畝三分 貳石六斗二升 正善

以上

惣都合九拾九石九斗壹升壹合六石、

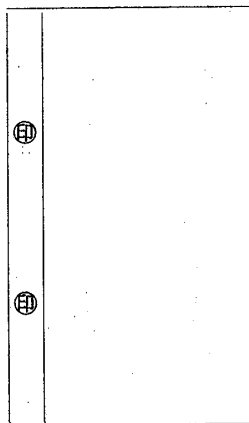
「中」 壹反五畝廿分 貳石八斗二升 正善

惣都合百石壹斗五升一合六夕、

慶長七年十月六日書之

鶴林寺

(裏表紙)



六 刀田山寺領分名寄帳

(表紙)

壬寛文貳年
刀田山寺領分名寄帳
寅霜月吉日

光明院

長なわて西園坊田
上 壹反貳畝五歩 分米貳石四斗三升三合三夕
横みとり
上 壹反壹畝拾七歩 分米貳石三斗壹升三合三夕
同所^{五十四}
*上 壹反五畝拾六歩 分米三石壹斗六合六夕
同所^{三十六}
*上 五畝貳拾六歩 分米壹石壹斗七升三合六夕
長なわて中姓坊田
上 三畝拾五歩 分米七斗
ふくてん新左衛門田
中 五畝廿七歩六厘 分米壹石六升五合貳夕
長なわて北町圓満坊田
上 七畝拾歩 分米壹石四斗六升六合七夕
(割印) ふくてん金藏院田
中 七畝拾貳歩 分米壹石三斗三升貳合
(割印) 寺ノ西南ノ町中藏坊田
上 七畝 分米壹石四斗
(割印) あらき圓満坊田
上 三畝拾壹歩 分米六斗七升三合三夕
同所北町十地坊田
中 三畝貳拾五歩 分米六斗九升
田合八段三畝拾四歩六厘

鶴林寺文書および史料目録

(冊八)

分米拾六石三斗五升四合

正住坊

「普賢院」

大門
上 六畝拾貳歩 分米壹石貳斗八升
坊領ノ橋
上 壹反四畝廿六歩 分米貳石九斗七升三合三夕
寺ノ西
上 七畝貳拾四歩 分米壹石五斗六升
よこみとり禪林坊田
上 七畝貳拾三歩 分米壹石五斗五升三合三夕
安楽坊田歩町東ノ町
上 壹反貳拾五歩 分米貳石壹斗六升六合六夕
ふくてん中藏坊田
中 五畝貳拾六歩 分米壹石五升六合
長なわて北町金藏院田
上 四畝拾四歩 分米八斗九升三合三夕
田數合五反八畝歩
此分米拾壹石四斗八升貳合五夕

持禪坊

「持善院」

東大門
上 七畝五歩 分米壹石四斗六升
出雲田
中 八畝 分米壹石四斗四升
ふくてん長町
上 八畝 分米壹石六斗 公方領
同所東ふくてん
中 六畝五歩 分米壹石壹斗壹升
よこみとり
上 九畝廿五歩 分米壹石九斗六升六合七夕
(割印) かきまち
上 六畝拾五歩 分米壹石三斗
(割印)

(割印) 長なわて北町禪林坊田 此内三畝^{廿七歩} 公方分

上 八畝 分米壹石六斗

同所圓満坊田

上 七畝拾歩 分米壹石四斗六升六合六夕

*東大門北町浄光院田
上 六畝拾貳歩

分米壹石貳斗八升

『(右の行の上に貼紙)』

④ 元文五年申ノ十一月

上田六畝拾貳歩 南大門前川なりニ付高之内ニ而引申候

内拾七歩貳厘七毛貳 分米壹斗壹升五合貳夕

(割印) まちの内畠なをし中蔵坊分
上 貳畝拾貳歩

分米四斗八升

あらき南町十地坊田
中 三畝貳拾貳歩

分米六斗七升貳合

まつの内中蔵坊苗代
上 貳畝

分米四斗

田數合七反五畝貳拾歩

此分米拾四石七斗七升五合三夕

内貳石三斗三升八合 公方分引

残高拾貳石四斗三升七合三夕

谷之坊 「慈恩院」

長なわてまちなをし
上 七畝拾六歩

分米壹石五斗六合七夕

よこみとり久大夫田
中 八畝八歩

分米壹石四斗八升八合

(割印) 寺ノ西
上 七畝拾五歩

分米壹石五斗^(割印)

(割印) 内貳畝拾壹歩五厘 公方領ニ引

かき町南中蔵坊田
上 七畝拾八歩 分米壹石五斗貳升

寺ノ西南町女意坊田^(マ)
上 八畝三歩 分米壹石六斗貳升

多意田北町^(カ)
上 六畝六歩 分米壹石貳斗四升

(割印) 長なわて北町女意坊田^(マ)
上 五畝廿三歩 分米壹石壹斗五升三合三夕

東大門浄光院田
上 貳畝八歩 分米四斗五升三合三夕

田數合五反三畝七歩

此高拾石四斗八升壹合三夕

内四斗七升六合七夕 御公方分ニ引

残高拾石四合六夕

実相坊 「浄心院」

ふくてん角田
上 六畝貳拾九歩 分米壹石三斗九升三合四夕

はいてん
上 七畝拾五歩 分米壹石五斗

道なん田
中 壹反五畝廿歩 分米貳石八斗貳升

ふくてん
中 九畝九歩 分米壹石六斗七升四合^(割印)

長なわて南ノ町圓満坊田
上 七畝拾歩 分米壹石四斗六升六合七夕

大門金蔵院田
上 六畝廿貳歩 分米壹石三斗四升六合六夕

寺ノ西北町次左衛門田
上 七畝拾五歩 分米壹石五斗

よこみとり安養院田
上 九畝拾三歩 分米壹石八斗八升六合七夕

田數合七反拾三歩

此高拾三石五斗八升七合四夕

内五斗五升六合 御公方分二引

残高拾三石三斗壹合四夕

奥之坊

「真光院」

いけしろ
中 七畝貳拾五歩

分米壹石四斗壹升

ぶくてん
中 八畝七歩

分米壹石四斗八升貳合

寺ノ西
上 七畝拾四歩

分米壹石四斗九升三合三夕

同所
上 貳畝拾三歩

分米四斗八升六合六夕

かき町北町中蔵坊田
上 七畝拾七歩

分米壹石五斗壹升三合三夕

寺ノ西北町女意坊田
上 七畝貳歩

分米壹石四斗壹升三合三夕

多田南町
上 六畝七歩

分米壹石貳斗四升六合七夕

長なわて南町女意坊田
上 五畝廿三歩

分米壹石壹斗五升三合三夕

よこみとり安養院田
中 貳畝廿九歩

分米五斗三升四合

田數合五反五畝拾七歩

此高拾石七斗三升貳合五夕

東圓坊

「龍禪院」

長なわて東
上 三畝五歩

分米六斗三升三合三夕

よこみとり

中 壹反貳畝拾六歩

分米貳石貳斗五升六合

長なわて西
中 三畝貳拾五歩

分米六斗九升

同所圓満坊歩町
上 七畝拾歩

分米壹石四斗六升六合七夕

長なわて南町禪林坊田
*上 八畝

分米壹石六斗

にかいの下中蔵坊田
上 六畝四歩

分米壹石貳斗貳升六合七夕

東大門南町浄光院田
上 八畝五歩

分米壹石六斗三升三合三夕

長なわて南町金蔵院田
上 七畝

分米壹石四斗

(*じるし上の貼紙)

元文五年申ノ十一月

上田六畝四歩 内壹畝六歩四厘五毛 分米貳斗四升三合

上田八畝五歩 内拾六歩七厘四毛 分米壹斗壹升壹合六夕

右者南大門前川なりニ付高之内ニ而引申候

田數合五反六畝五歩

此高拾石九斗六合

玉泉坊

「宝生院」

大門
上 七畝七歩

分米壹石四斗四升七合

長なわて作意田
上 七畝拾歩

分米壹石四斗六升七合

よこみとり
上 七畝七歩

分米壹石四斗四升六合六夕

同所
上 四畝五歩

分米八斗三升三合三夕

同所長田村惣意田ノ内
上 三畝拾八歩

分米七斗貳升

惠門たはし禪林坊田
上 八畝廿四歩

分米壹石七斗六升

安樂坊田西ノ町
上 七畝拾六歩

分米壹石五斗六合六夕

寺ノ西北町中蔵坊田
上 七畝

分米壹石四斗

まつの内中蔵坊田
上 六畝拾歩

分米壹石貳斗六升六合七夕

上畑壹畝五歩

分米壹斗六升三合五夕

田數合五反九畝七歩

此高拾壹石八斗四升七合貳夕

田畑合六反拾貳歩

分米二口合拾貳石壹斗七夕

教圓

承仕田
一上壹反六畝四歩

分米三石貳斗貳升七合*
「ハツ分」

寺内田畠之分

「光明院」
中性坊
長吏坊

女意坊屋しき東町
一田八畝七歩

分米壹石四斗

壹石七斗代

此内壹畝正住坊へ入ル
一畠七畝廿七歩 分米七斗九升
石代

玉泉坊屋敷
さんふの元
一田四畝廿三歩

「此之屋敷一山惣中相談上三而
本高山林ニ仕者也
宝永二乙酉年正月廿二日

「普賢院」
正住坊

分米八斗壹升三夕

壹石七斗代

安養院屋しき
一畠八畝

分米八斗

石代

くわんき坊屋しき
一畠壹畝拾歩

分米壹斗三升三合三夕

石代

女意坊田東ノ町ノ内東
一田壹畝

分米壹斗七升

「持善院」
壹石七斗代

東蔵坊屋しき
一田六畝十九歩

「持善院」
持禪坊

分米壹石六斗壹合三夕

壹石六斗代

「東善坊屋敷事」
十地坊屋しき
一畠七畝廿壹歩

分米七斗七升

石代

実相坊屋しきノ内取
一同貳拾歩

分米六升六合六夕

石代

谷之坊古屋しき
一畠六畝貳歩

「慈恩院」
谷之坊

分米六斗六合六夕

石代

禪林坊屋しきノ内
一畠三畝六歩

分米三斗貳升

石代

みろく坊屋しき
一田六畝

分米九斗六升

壹石六斗代

泰之坊屋しき
一畠七畝廿三歩

「浄心院」
実相坊

分米七斗七升六合六夕

石代

同人屋しき
一田四畝五歩

分米七斗八升貳合六夕

壹石七斗代

圓満坊屋しき
一畠九畝廿二歩

「真光院」
奥之坊

西乗坊屋しき
分米九斗七升三合三夕 石代
一田五畝七歩 分米九斗四升貳合 壹石八斗代

安楽坊屋しき
一畠七畝三歩

「龍禪院」
東圓坊

分米七斗壹升 石代

実相坊屋しき
一田五畝廿四歩

「宝生院」
玉泉坊

同人屋しき
分米八斗七升 壹石五斗代
一畠四畝廿歩 分米四斗六升六合六夕 石代
吉乗坊屋しき
一畠五畝三歩 分米五斗壹升 石代 同人

田高ノ六石八斗貳升六合貳夕

畠高ノ六石九斗貳升三合

畠ノ六反九セ七歩

八 棟札・銘文

自保延三年以来至于当年百九十七年
十三代相伝也
寺僧

法華堂

一和尚 覚明房阿闍梨忠真伊勢和寺 生年 六十八

二和尚 伊岡慶円 栗津

三和尚 円定房 権別当

四和尚 式部也 年行事 稲屋

五和尚 石見大津長田

六和尚 大夫也米田

講堂

一和尚 上総公 安田

二和尚 加賀公 長田

三和尚 豊前 長田

四和尚 越後也

五和尚 尾張也 木村

六和尚 因幡公 安田

右筆明達 生年 五十歳

◇鶴林寺本堂修理委員会編『国宝鶴林寺本堂修理（屋根葺替）工事報告書』

（昭和四四年七月刊）によった。

一 木片銘

（銘一）

弘長三年癸亥二月廿七日 棟上

檀那 宗末
沙弥誓願
良満大徳
弁豪大徳

二 太子堂屋根板墨書銘

（銘二）

鶴林寺法華堂修理自太子御草葺以来至于天永三年第三度注之于次宝治

三年修理之其後相当千七十九年正中三年丙子修理之已上第五度

大工左近入道沙弥覚性

舎弟四郎 橋末永（末力）

大工子息右馬充橋光真（光力）

同舎弟左近次郎延俊

同左近三郎 同五郎

此人々者長田村住也

別当 頼玄 生年卅七

三 宝篋印塔銘文

(銘三)

曆応二年己卯三月八日

勸進僧□慶

◇永江幾久二『加古川市内石造遺品の調査報告書』(加古川市教育委員会、昭和三十七年三月刊)によった。

四 太子堂懸仏銘

(銘四)

康暦元

八月五日

五 大講堂宮殿棟札

(銘五)

播州鶴林寺大講堂宮殿上棟應永二年丁卯月十五日*

大願主肥前阿闍梨覺藝 道光禪門 沙弥妙覺 右衛門尉影安

*于時長吏法印忠深大德

大工 右衛門大夫宗重 右衛門尉平久延
右衛門□□橋末行 沙弥藏阿

六 法華経板木銘

(銘六)

応永十年卯月

七 山王社棟札銘

(銘七)

長吏律師覺舜 阿闍梨覺藝 阿闍梨清舜 覺禪 慶尊 聖秀 祐慶
上棟 山王社 應永十三年丙戌卯月廿日 申 左方大工左衛門尉貳氏安*

阿闍梨覺慶 阿闍梨聡印 尊秀 慶金 尊祐 清秀 祐真 覺藝

覺金 祐尊 聡秀 尊覺 慶恵

*右方大工左衛門尉橋末光

祐圓 覺秀 覺賢 聡祐

八 木札片銘

(銘八)

幡州賀古天王寺

于時正長元年戊申八月十九日□

大願主 阿闍梨覺誓 小山三郎左衛門尉貞純

長吏阿闍梨覺盛

九 聖德太子絵伝箱書

(銘九)

(蓋裏)

上宮聖德皇太子殿八補繪宝徳貳年二月日修復之 鶴林寺常住也

(箱内底)

八補繪箱宝徳貳年二月日 脩復之

一〇 太鼓胴板銘

(銘一〇)

(一)

。寛正貳曆二月十九日

。聖^(靈)靈會例場始之

。一方 仕續^(せ)

。是往古之□□

。大鼓 □□

。播州 賀古郡

(二)

。大鼓筒 □□

。寛正貳曆^{辛巳}

。二月十九日行之

。一方 仕^(続)□□之

二 文書櫃底書

年行事

天文廿二年

弥勒坊

(銘一一)

□□寺常行堂瓦成時本願○

□時永祿九年二月中旬ヨリ

始候早

二五 丸瓦篋書銘

□□

□宗吉

春祐
安養院

三 護摩堂棟札銘

上棟播州賀古郡刀田山鶴林寺護摩堂本願大阿闍梨安養院法印春祐*

癸永祿六年

*大工藤原源左衛門小工□□三郎左衛門 敬白

亥卯月中旬

三 常行堂東北隅鬼瓦篋書銘

再興本願當寺僧安養院^{春祐}

永祿九年二月吉日

(銘一三)

四 丸瓦篋書銘

(大工播)

多家左□時^(を)經

當寺住僧安養院

□祐^(春)

(銘一四)

(銘二五)

□□□瓦葺□本願○

□□九年二月吉日作始也

二六 丸瓦篋書銘

(銘一六)

永祿九年 三月 日
かわら

二七 太子堂漆塗机朱書銘

(銘一七)

播州 加古郡 刀田山御太子御宝前机寄進 梶原平三兵衛尉景秀 敬白
天正二年 *

*丙
子二月吉日

二八 懸仏銘

(銘三九)

敬白

奉懸薬師如来御寶前

御正躰一面

右意趣者 為現當二世之

悉地令成熟円満故也 敬白

〔參考〕

一 鶴林寺過去帳序並緣起

(寶冊一)

過去張叙

天台沙門 實海述

夫九枝燈滅、纔招殘月之光、四山花萎、緬臨孤峯之雲、矣萬物有限百事無常、東岱前後之煙、邇昇遐昇、北邙新舊之露、親消疎消、矣貴賤徒添骸骨、於古墳之數、緇素空駐、姓名於舊里之苦、魂魄去而不還、茫茫三界之何處、命根絕而不繼、閻々四趣受何苦、非目連神足那律、天眼孰能知見之、耶任因感、果哀哉、不如下傾法水、洗塵垢、挑惠燈、照迷暗、繇茲弟子旦暮、所修誦經諷咒之微善、寤寐所勵佛寶法寶之功德、併報師長父母之厚德、悉謝同行知識之芳恩、及花下半日、友月前一夜、客悲誓內薰、加持外資、雖八獄之罪人、盡救療、哉彼道如之千日、勤修解紅蓮之水、林通之一偈、誦力滅焦熱之焰、矧今唱姓名於佛前、皈功德於果地、出離生死不足、致疑仰願、釋迦彌陀兩足之尊、觀音彌勒四攝之大士、照見弟子之丹心、傾引攝之蓮臺、遂到岸之素意、云爾

于皆永正甲戌佛涅槃日

天台沙門實海叙

過去帳緣起

梵漢和三洲之過去帳緣起於二月氏者、中天竺摩訶陀國解脫生死寺作大

過去帳、廻向所修功德、名帳、衆三萬七千餘人也、亦同國那蘭陀寺大小二卷有過去帳、戒賢論師以阿氏多尊者、為宗主、興有教小乘法、佛法結緣之亡靈貴賤同記、置之、小過去帳、謂之又同寺師子覺智光以妙吉祥尊、為宗主、興大乘圓頓教、謂大過去帳、其外月氏境、為首諸蘭悉有、此方法、次於震旦者、白馬寺名、云招提寺、國請寺等、認之、每日廻向無退轉、加之寒山拾德對六十餘人、大衆錄過去帳、弔有緣無緣之亡靈、計知功德之中、功德利益之中、利益者、歟、於日城者、日枝山延曆寺貞觀年中、前唐院大師始記、置過去帳、擬速成妙果、之直因、從夫以來、南都北京諸寺、此取修之方法、專盛也、竊案三國之興起、宿一樹之陰、汲同井水、是併多生廣劫之厚緣也、何況一紙列名、之契約、顯一佛淨土之勝緣、迷悟同時之回向、叶凡聖一如實義、誠是自他薰善之智風、何不拂衆迷之闇、耶

(付) 鶴林寺歷代長吏記 (鶴林寺長史幹覺盛師編)

中興一世寺務檢校法印義應

建仁三 亥二月三日遷化、天台中興改宗一世、玉泉坊室、歷代之實名

改書記置位牌損事法花塔納者也 (宝生院旧過去帳ニ依ル)

二世法印權大僧都義正 建保二 甲戌十月五日

三世僧正義仙 寬喜三 壬辰五月八日

四世大僧正義了 建長四 壬子十月十日

五世大僧都義隨 文永十 癸酉八月十五日

六世僧正弘順 弘安五^{壬辰}正月廿八日

七世大僧都得順 徳治三^{庚戌}二月三日

八世權大僧都得到了 文保二^{丁巳}六月五日

九世大僧正得弘 延元二^{丙子}十一月六日

十世大阿闍梨永盛 貞和二^{丙戌}二月十九日

十一世堅者法印惠順 貞治五^{丙午}七月廿六日

十二世法印順應 永徳元^{辛酉}十二月廿日

十三世法印慶順 應永二^{乙亥}正月十二日

十四世僧正守盛 應永十八^{庚寅}五月六日

十五世法印覺盛 正長六^{甲寅}二月十三日

十六世大僧都得盛 享徳二^{癸酉}八月五日

十七世權大僧都尊盛 寛正六^{乙巳}五月十八日

十八世大阿闍梨法印智盛 文明五^{癸巳}十二月五日真言秘宗改宗高野山五

室谷ヨリ転住

十九世法印秀盛 延徳三^{己酉}九月十七日

二十世僧正尊海 永正四^{丁卯}二月十八日

廿一世法印秀圓 天文三^{甲午}十一月十五日

廿二世法印大僧都壽盛 弘治元^{乙卯}四月三日

廿三世法印慶盛 天正六^{戊寅}十月二日

廿四世堅者恵盛 天正十^{壬午}八月十日

廿五世權大僧都觀盛 慶長十八丑二月六日

廿六世法印祐順 元和七^{辛酉}九月十三日

廿七世法印得盛 寛永五^{戊辰}三月五日

廿八世權大僧都法印尊勝 高野山五室谷福智院ヨリ転住

廿九世權大僧都長吏法印慶算 万治元年十二月廿四日安樂坊

卅世權大僧都長吏法印慶祐 寛文四^{乙巳}年七月

卅一世堅者法印長吏祐盛 天和二^{戊午}年八月九日普賢院、八十二才

卅二世三部都法大阿闍梨堅者長吏良盛法印大和尚 元禄八^{乙亥}年正月十二日六十九才玉泉坊室 万治三年 天台宗改宗輪王寺末寺、長吏職 天和二年八月ヨリ享保二年十一

月九日マデ

卅三世大阿闍梨堅者長吏法印良辨大和尚

元禄十三^{庚辰}四月十日龍禪院夏六十九才

卅四世三部都法大阿闍梨堅者長吏教盛法印大和尚

享保二^{丁酉}十一月九日良盛弟子六十才 宝生院、大西市郎右エ門出

卅五世三部都法大阿闍梨堅者長吏法印良榮大和尚

享保十三年^{戊申}三月廿九日六十二才慈恩院夏

卅六世大阿闍梨權大僧都長吏法印快辨大和尚

宝曆二申歲十月廿七日龍禪院六十七才 比叡山正覺院 豪婿師匠 執行探題

卅七世堅者法印長吏舜正大和尚

宝曆十辰年十一月十六日五十九才龍禪院

(真光院)

墓 宝生院

墓 (真光院)

墓 (真光院)

真光院

卅八世權大僧都大阿闍梨堅者長吏法印弘慶大和尚

明和五子^戊歲正月十一日(宝生院過去帳ニモ所載)

卅九世權大僧都長吏法印慈盛大和尚

明和九子^{壬辰}歲二月廿九日六十二才 宝生院四世北在家大西氏出

四十世權大僧都長吏法印實範靈位 安永二^{癸巳}九月十日四十二才

四十一世權大僧都堅者長吏法印快旭大和尚

安永七戌年十一月廿一日四十才龍禪院夏

四十二世慈光院大阿闍梨堅者長吏法印圓盛真登 文化十五寅年十二月

七日七十四才慈盛弟子 細田村正木伝兵衛出 宝生院ヲ弟子誠盛ニ譲リ真光院ニ転住ス

四十三世圓融院大阿闍梨堅者長吏法印周盛大和尚 天保八酉年五月朔

日圓盛ノ弟子 北在家給屋吉 宝生院中興普請勧発六十六才浄泉坊右エ門ノ出

四十四世權大僧都長吏法印舜正大和尚 (二重抹消)

四十四世大阿闍梨長吏法印惠圭大和尚

安政三^{丙辰}年十一月廿四日六十三才

四十五世願應院大阿闍梨堅者長吏法印盛隆大和尚

文久元酉年三月九日六十三才、圓盛ノ弟子 丹波市原ノ出生 真光院ヨリ宝

生院ニ転住、宝生院ヲ普請ス

四十六世善應院大阿闍梨堅者長吏法印光盛大和尚

元治元子年九月十九日五十二才真光院藥医門建盛隆法印弟子、真光

院ヨリ宝生院へ転住、米田村出生

四十七世大阿闍梨長吏法印圭芳大和尚 明治二^{己巳}年二月廿四日五十九才

四十八世慈恩院大阿闍梨長吏法印壽圭大和尚

大正九年十一月廿九日七十八才

(浄心院)

四十九世持善院權僧正長吏法印圭忍大和尚

大正十四年九月廿二日八十六才 江州仰木岡本氏出生

(真光院)

五十世龍禪院權僧正長吏法印豪盛大和尚

昭和八年九月十日六十六才 神崎郡香呂村大飼田中氏出生、圭忍弟子

(宝生院)

五十一世久遠壽院大阿闍梨長吏法印大僧正惠寬大和尚

昭和五十年一月十二日九十一才 岡山県津山市大篠茂渡氏出生 三千院門跡探題大僧

正堀惠慶弟子 堀氏ハ寿圭徒弟 天台座主大僧正山田惠諦ノ兄弟子、毘浄心院住職

沙門堂門跡已講大僧正梅山圓了ノ兄弟子 (浄心院)

五十二世實然大僧正 与樂寺市原即盛徒弟宝積院内海実行徒弟ヨリ転

師安栗郡安富町安志吉田氏出生 (真光院)

五十三世覺盛大僧正 豪盛徒弟、宝生院ニテ出生、現董、幹氏(宝生院)

◇資料 永正^{甲戌} 弘湜樂日天台沙門實海叙 旧過去帳

資料 寛政二戌年宝生院誠盛記載

その他宝生院藏過去帳五冊等により

昭和五十四年二月現在宝生院所藏旧過去帳並ニ内仏位碑及ヒ墓塔頭宝生院真光院浄心院住職伝承ヲ包括ノ上覺盛調査閱了記ス

二 修正會悔過作法

(宝冊一六)

(異筆)

「刀田山鶴林寺本尊藥師如來日光月光毘沙門韋駄天
正徳四^甲年二月十五^亥日開帳四月八^己日迄
閏帳仕候長吏實生院教盛五十七歲時」

(紙縫目)

刀田山鶴林寺 修正會法事之作法 實生院教盛法印

登礼盤先啓 二打 取香呂蹲踞

一切恭敬 敬礼常住三寶 打

是諸衆等 人各踴躍 嚴持香花

如法供養 願此香花雲 遍滿十方界

供養一切佛 化佛并眞法 菩薩聲聞衆

以為光明臺 廣於无边界 無邊无量

作佛事 導師ノミ 供養一切恭敬 打

平座 如來妙色身 世間无興等 无比不思議

是故今敬礼 如來色无盡 智恵多復然

一切法常住 是故我歸依 打 上下座

導師立座セテ散華 同衆座トモ立ツ 瑠璃金山大覺尊 福德智恵皆圓滿

獨以出見三千界 極難值遇優曇花

香花供養佛 *立テ居ヘシ 登盤礼 『是レ迄行堂衆立テ居ヘシ』

鶴林寺文書および史料目錄

敬礼常住三寶 歎佛咒願 打 向一處 下リテ一礼 則登ル 咒願略

三寶境界 不可思議 恒沙劫中 讚歎稱揚

南無毘盧遮那 一礼ツ、導師奉請衆立取次第 南無遍周法界廬遮那佛

南無一代教主尺迦尊 南無大悲影向證知證誠

南無令法久住利有情 南無十方三世佛

南無寶髻佛 南無光明寶幢佛

南無金幢光佛 南無金光藏佛

南無金蓋寶積佛 南無花光幢佛

南無大幢光佛 南無大寶幢佛

南無不動佛 南無寶動佛

南無无量寿佛 南無天鼓音佛

南无功德如來 南無當來導師弥勒慈尊

南無舍利形像善面宝塔 南無成就嚴勝王佛

南無妙幢菩薩 南無金光菩薩

南無金藏菩薩 南無常帝菩薩

南無法上菩薩 南無善安菩薩

南無娑婆世界世无畏者利益有情

我等奉請吉祥天 (ソシヨ) 平座導師ノミ之ヲ唱フ 至心希請率土中

消除解脫一切難 令得圓滿諸善願

仰願本尊瑠璃光 真言秘密一切誦打

唵呼嚧々々戰駄利麼橙祇莎婆呵廿一反打

佛名 取如意 微音

南無神咒威力消除業障神咒威力消除災難打

上ソノコ礼南無大地菩薩權現 中衆平座取次第南無常住妙花普光蘭衆

下南無七寶所成勝宮殿 上南無衆法瓔珞莊嚴

中南無還念本願慈悲護 下南無聖朝安穩增寶壽

上南無天下法界利有情 中南無国土安穩興正法

下南無国吏安穩成善願 上南無庄內安穩諸人快樂

中南無伽藍安穩興隆佛法 下南無年頭々番成大願

上南無大施主等安穩壽福 中南無滿堂大衆成所願

上南無頂上佛面除疫療 上南無最上佛面願滿足

上南無地味增長成五穀 上南無蠶養如意万斤利益

上南無一切所願皆令滿足 打

大悲護念成大願 三界六道利有情

南無諸大菩薩麼訶薩聲聞緣覺一切賢

聖普為四恩三有法界衆生永斷除三障

已皈命礼打至心懺悔如是等一切世界

諸佛世尊常住在世是諸世尊當慈念

我憶念我證知我若我此生若我前生從

無始生死以來所作衆罪不自覺知若

自作若教他作見作隨喜若塔若僧若

十方僧物若自取若教人取見作隨喜

或作五逆四重無間重罪若自作若教他

作見作隨喜十不善道自作教他見作

隨喜所作罪障或有覆藏或無覆藏應

墮地獄餓鬼畜生及諸惡趣邊地下賤及

未來際如是等所作罪障今於十方三世

諸佛懺悔發露皆悉至心發願我

等從今日乃至無上菩提於一切所常得值遇

十方諸佛普賢文殊觀音勢至地藏菩薩

令我恒得親近供養恭敬發菩提心永

不退轉常生々所淨佛国土斷除三障永離

衆難成無上道 打イイ棄佛子打

白衆等聽說等云 打

次行道 取楊枝開 誦般若心經 下聲

次乍立發願 摩訶 行深菩提 心無 是大 能除 揭諦

至心發願 正月修善 八箇月夜 吉祥悔過

楊枝香水 加持威力 得大靈驗 護持大衆

諸檀施主 消除不祥 息災延命 增長福壽

地味増長 如意吉祥 五穀成就 蚕養如意
無邊善願 決定圓滿 皆令滿足 及以法界

平等利益

平座取次第
衆生無邊誓願度 福智無邊誓願集

法門無盡誓願知 無上菩提誓願證

加持香水成大願

次守護句 可有

次持咒行道 三反 下聲 揚杖直

南謨薄伽伐帝鞞殺寔社嚧薩末瑠璃

鉢利婆羅闍耶怛他揭多耶阿羅歇帝

三藐三勃陀耶怛姪他唵鞞殺逝鞞殺

逝鞞殺社三沒揭帝莎呵

次登礼盤 踰跏云

導師一人
指聲（微音）

南無尺迦牟尼佛打 南無弥勒佛打

南無藥師佛打 南無无量寿佛打

南無大聖明王打 南無觀世音菩薩打

南無大吉祥天打 南無梵尺二天打

南無四大天王打 南無堅牢地神打

所修功德 廻向三寶 廻向十方佛 廻向本尊

鶴林寺文書および史料目錄

廻向三界 廻向神祇 廻向伽藍 廻向聖朝

くく國內 くく國吏 くく庄内 くく寺内

くく年頭 くく施主 くく法界 くく平等

次佛子申云一棄佛子某 滿座大衆打

大導師作法

先登礼盤 有音楽 勅衣正如常金 二打
取香呂

導師一人
當願衆生 得無碍眼 見一切佛

唯願如來 哀愍我 常令得見大悲身

三業無倦奉仕尊 速出生死歸真際 三礼

次三十二相

烏瑟膩沙無見相 於 髮毛右轉紺青相

面輪端止滿月相 眉間毫相右旋相

眼睫紺青不乱相 於 眼精紺色分明相

四十齒膺逾雪相 於 四牙鮮白鉅利相

舌相廣長覆面相 常得上味適悅相

梵音和雅等聞相 於 常光面各一尋相

軀相縱廣量等相 於 身相修廣端嚴相

容儀洪滿端直相 七處充滿愛樂相

肩頸圓滿殊妙相 膊腋悉皆充實相

胸臆身半師子相 身色光耀金鉢相

身皮細滑離塵相 毛孔一生右旋相

陰相藏蜜象王相 兩臂修直麼膝相

雙腩漸次纖円相於 足跟廣長稱趺相

足趺修高稱跟相 指間鞣網金色相

諸指圓滿纖長相 手足柔軟勝餘相

千福輪文圓滿相於 足下平滿等觸相

我今畧讚佛功德 於德海中唯一諦

廻此福聚施群生 皆願速證菩提果

「如一塵端如塵斷 地中佛讚不思議

佛及菩提在果中 止見佛性證妙果」

佛名 南無歸命頂礼如来妙相 句ノ中他本ニナシ

生々世々値遇讚嘆

略他本ニナシ 「次伽陀

如来妙色身 世間無与等

無比不思議 是故今敬礼

面善円淨如滿月 威光猶如千日月

聲如天鼓俱翅羅 故我頂礼弥陀尊

深達罪福相 遍照於十方

微妙淨法界 具相三十二

次導師佛名 「導師一人ニテ云」

南無歸命頂礼如来妙相

生々世々如是讚嘆」

次教化 導師句頭

面輪端正之鉢ヲハ秋ノ月ニモ喻ヘキカナ

妄想之雲永晴テ法性之空ニ 大声同音 マトカナレハコソ有ケレ

眼精紺色之粒ヲハ夏ノ蓮ニモヨソフヘキカナ

生死ノ濁ニケカサレシテ清涼ノ池ニアサヤカ

ナレハコソ有ケレ「謹奉讚嘆」

「次金二打 唄 散花 梵音佛名

次導師佛名

哀愍授受 護持一衆 大悲護念」

次神分 祈願 表白

敬白周遍法界摩訶毗盧遮那因円果滿

盧遮那海會一代教主釋迦善逝淨瑠

璃世界醫王博伽安樂清淨土无量寿佛

當來導師弥勒慈尊八万十二權實聖

教普賢文殊等之諸大菩薩身子目連

等之諸賢聖衆惣佛眼所照微塵剎

土之三寶別常住海會諸尊聖衆之寶

前殊當年行疫流行神等而言今信心

大施主等致一心之精誠備香花燈明於佛前

運無二之信心勤正月修善於每年御事所

以者何夫青陽之初春祈可祈者息災延

命之計孟春之美景願可願者福壽增

長之善也因之開秘密之奧藏唱諸

佛之神咒仰加持之威力祈現當之悉地

然者壽命長遠誇醫王之法藥福祐

豐饒預多聞之利益雖旨趣多大概在之

每年之御勤也垂照覽給

次願文可讀之 次祈願 導師初

南無令法久住利有情 天衆地類倍增法樂

國內神等威光自在 行疫神等永離業道

貴賤靈等皆成佛道 聖朝安穩增宝樂

國吏安穩万民与樂 大施主等安穩成悉地

滿堂大衆成善願 伽藍安穩興隆佛法

三界六道平等利益

南無頂上佛面除疫靈 南無最上佛面願滿足

南無地味增長五穀成就 南無蚕養如意千斤利益

南無一切所願皆令滿足

次勸請

敬礼十方三世佛 大恩教主尺迦尊

八万十二諸聖教 恒沙塵數諸聖衆

梵尺四王諸護法 還念本誓来影向

「次導師佛名

哀愍授受 護持大衆 大悲護念」

已上大導師畢

次牛玉導師作法

先三礼 如来唄 次表白 次發願

次五大願 次加持 次呪文 次佛名

次教化 次礼

正月修善之牛玉ヲハ如意ノ珠ニモ喩ヘキカナ

七宝ノ才ヲ雨シテ庫藏之内ニユタカナレハコソアリ

ケレ秘密加持ノ宝印ヲハ泉ノ水ニモヨソフ

ヘキカナ衆宝ノ貯ヲ涌シテ施主ノ

願ヲ満玉ヘハコソ有ケレ「謹奉讚嘆」

次藥師大呪 同小呪 次毗沙門呪

正本嘉吉三年癸亥十二月上旬筆者真慶ト有 嘉吉三亥年ヨリ

元禄十一寅年マテ貳百五十六年ニ成ル右之正本本尊寶藏納有也

元禄十一^{戊寅}年正月十二日持主刀田山玉泉坊室寶生院 教盛法印
書写之者也

◇原本には博士^{はくし}が付されており、また朱筆で○や合點・線などが記入されているが、ここでは割愛した。

三 安田吉道

(宝冊一一)

吉道

次第 霧の林や峯の雲く。長閑き春そ久しき。是は九州黒田の家臣、

安田某とは我事也。ある夜不思議の靈夢を蒙りて候程に、此度思

ひ立、播磨刀田山へ参、先祖^{ミソヤ}を尋申さばやと存候。

道行旅衣、頃は弥生のなかばとてく、霞む行衛は末長門、下の関を

ば今朝越て、安藝の宮嶋伏拝、吉備津の宮や雨雲の、播磨の国を

はるくくと、名を高砂の辺なる、刀田の林に着にけりく。急候

程に、是は早刀田山霧林寺に着て候。暫里人を相待、委尋はやと

思ひ候。一声サシ春風^{ハルカゼ}桃李^{トリ}花の開る時、人の心も花やかに、あく

かれ出る春の雲。実に長閑なる時とかや。

下哥見渡は、柳桜をこき交て、今そ春辺の錦かな。上哥くる春ことに

さそはるく、心も長きけふの日に、運ぶ歩のかすよりも、つ

もる桜の雪の庭。猶色そへて紫の、花をたれたる藤の門。明るを

春のけしきなく。ワキ如何に、是成尉殿に尋申へき事の候。

シテ此辺りにては見馴申さぬ御事也。何方よりの御参詣にて候。
ワキさん候、我は築紫のものにて候か、此度始て参詣仕候。この
あたりに安田里と申所の御座候か。

シテあなたに見ゆる一村こそ、安田里にて候。何故御尋候そ。ワキさ
ん候、我御祖^{ミソヤ}安田吉道と申候は、慶長年中此安田里に住給ひし、
吉太夫と申せし人の弟にて候か、其頃武名のほまれ有によつて、
築紫黒田の家臣と成候。悉^{フツク}に先の御靈^{ミタマ}の神、祝奉^{ホキ}り度存候て、申
候事にて候。安田の姓氏^{セイイ}御存候は、語て御聞せ候へ。

シテ則我は安田にゆへ有者にて候。委語て聞せ申候べし。抑村^{是ハ}上天皇
の後胤、具平親王の旧跡は、今古大内村と申候。又安田の姓氏^{セイイ}ハ
具平親王の後胤にて、安田里を拝領せし故、安田勝之進、源の吉
道と名乗、其外細田里に、船橋正一^{カッ}、又近村に長田喜直^{ヨシナガ}、養田友
重、池田勝寿とて、五人の家臣有しそかし。

ワキセル能々聞は有難や。今こそ代々の先祖^{ミソヤ}をハ、いやおひ受し嬉しさよ。
シテ扱もまた、君に仕し其中に、安田吉道ハ、ワキますら男か正
木のかつら。長き世に、シテいきの松原刀田山の、檀越^{ダンゴツ}と成て今
爰に。ワキ御祖^{ミソヤ}より修正會鬼面行ハる、シテ其役を蒙り、今に至
りて勤る事。ワキ天下泰平。シテ國土安穩。ワキ五穀成就。シテ
民安全。地四海波しつかにて、國も治る今の世は、神と君との恵
にて、古今希なる御治せい。実に國恩を仰ても、こともおろかや

かゝる世に、生年^{イナトシ}生る有難や／＼。クリ地夫神代の昔物語ハ、天地をもつて齋物とし、日月を以て正明とす。シテ其昔、此敷嶋は、唯一神道^{サイ}の國風にして、其家毎に御靈をは、屋敷のうちに勧請す。シテ去程に、我家に代々傳りて有しを見れば、二ツ引に三ツ巴の、紋所居しはたさし物、簾に指し竿迄も、シテ今は是刀田山にこそ預^ケけれ。

同旁以當山の追儼會の役を、勤むる也。

クセ然に、此追儼會は、唯一神道の袂にして、大内において式例あり。扱刀田山の修正會は、人皇六十二代村上天皇、天徳年中より、正月八日追儼會鬼面の躍を、我先祖^{ミソト}世々其役を蒙りて、刀田山より数度の使をうけて、天下泰平五穀成就の御祈、貴賤群集して其吉祥を貴めり。シテ夫東南に雲治り、西北^同に風靜にて、刀田の林も榮行や、花も常盤の松の風、北露の虫の声迄も、和哥の姿にもるへしや。天地を動し、鬼神も感をなすとかや。ロンキ^地析^キなば、なとか験のなかるへき、元より同し神の身なれば。去程に、安田の鎮守ハ、シテ天徳の頃より今文政に至るまで、九百余歳^{サイ}のほとをへて、おしめとも猶梓弓。地かへらぬは本の水。流は尽ぬ言の葉の、露の世語り末かけて、心安田に思しめせ。シテ今は何をかつゝむへき。我は安田の守り神。地又時節をも若松の、花はみどりと言捨て、白にきてこそ残りけれ／＼。中入狂言語問奥二記

ワキ
上
むは玉の、夜の夢路は五十年^{イツトセ}の／＼、その樂も逢かたき、榮花の春に立帰る、又寝の夢を待にけり／＼。後シテ千早振、天照神の國なれハ、日の本なりといふにそ有ける。我ハ是、安田の鎮守具勝明神とは我事なり。地夫吾國は、日の國なるによつて日の本と言。諸の神の始は、國常立の尊と申奉る。シテ次に月の國^{ボント}天竺の始、薄伽梵^{バクガフン}天は、地天神六代の末に當りて、象の頭の人初て月支にあらはるゝ。シテ次に星の國盤古^{ハンコ}氏妙見は、地地神四代の末に當りて、鬼の頭の人始て唐土にあらはるゝ。日は太陽、月は陽の裊情、星は陽の殘氣也。三光皆我國より出給ふ。

シテ貴きかな我國は。神道^{カンミチ}を仰てぬかづき奉る。地実大君の御代なれや。シテいろ香うつるふ蝶鳥の、立舞ふかけも神風に。同時の調子のかなてこそ、有難かりける御靈の神樂^{カク}「樂」。地頃は今。弥生^{イヤシ}しげるすべらきの／＼、実時めける音楽は、

シテ春鶯轉の花の袖。地さすやかさしの数々に、

シテ山は常盤の青幣^{ニギチ}。地庭は桜のしらにきて。シテとり／＼なれや小忌衣。地猶あし原の國民も、万歳をうとふ春の声。千秋のあきつ嶋、治る御代そめてたけれ、治る御代ぞ目出たけれ。

中入間

男是は此辺に住ものにて候。今日は天氣もうら／＼に候間、そこ爰に詣、刀田山へ参ふつるにて候。や、見訓ぬ人の御入候。何方より

御出候ぞ。ワキ我は築紫のものにて候か、始て参り候。安田某に故有ものにて候。具平親王の御事、又追儼會の式、語て御聞せ候へ。男いかさま、我等か存申通り、只今爰にて申へし。

扱も、具平親王と申奉るハ、天徳年中播磨の國鎮の守として、天
下り給ふに依て、大内村に殿造りし給ふ。御靈をは天王寺村にお
さめ、具勝明神と称し奉る。猶亦安田の鎮守は、吉道於地内に、具
勝明神を勧請し、朝な夕な在が如く、御供を備へ、忠やかに仕し
と也。又當山に於て、毎年正月八日、追儼會鬼面の式の時、安田
吉太夫と申もの、鬼面の役を勤、刀田山より七度半の使を受罷出
候。中にも希特成事ハ、追儼會の式に稻穂をなそらへ、三把拵へ、
衆徒三人持玉ふ。是者早稻、中稻、晚稻の三把也。此穂を持祈念
の中、自然と盛氣相顯るゝあり、衰ふ氣色見ゆる有。是を以富草
の、出来不出来を知り、盛氣の苗を以、其年の貢をなす。又耆人
ハ、十二の燈をならへ、十二ヶ月に當、油とうしん不同なきよふ
にして照し候に、火氣盛に成る有、又衰ふあり。其盛衰を以、月
々の晴雨氣候を知る便と成べしとて、近郷の老若翔集し、遠處の
ものハ聞傳て、其年の手當をはなすとかや。荒々斯のことく承傳
へ候。猶安田の子孫、今に至て鬼面の役を勤申候。去間、近村の
童子、安田某を鬼吉太夫と申候。荒不思議や、明神の森に當て音
樂の、聞へ候ハ、正しく御靈の顯れ給ふと存候。我等は御暇申候

べし。重て寄特を御待候へ。是より後シテの
出羽にかゝる

于時

文政十一子歲

三木住

安田方實

(貼紙)

刀田山 中寺什物

他所へ御貸候共早々御取かへし可被成候

四 鶴林寺縁起

(冊一二)

敬白

播州鶴林寺聖靈院縁起

右當寺者用明天王二年歲次丁未于時太子十六歲三月上旬從磐余池邊雙槻
宮有臨幸而建立精舍住持三寶令念願之處俄洪水出而材木數多
流來是名自然于時聚國民而令取積之其高如山此所名号小山
則仰秦川勝令守護之仍彼所名曰木守精舍建立靈現出現之間太
子生歡喜心聚國中工匠而以此灵木建立三間四面之精舍手自
刻彫釋迦三尊四天之像内陣四本柱圖繪八大童子之形去敏達天王十
四年乙巳冬十月依弓削物部臣等惡逆被流遣於山城國上狛下狛令
招請於惠便法師調供養軌儀為住持僧寶矣雖然吾朝佛法流布盡
未來際永劫不絶之段成不未定之間召下於吳德博士散華燒香折誓三

寶令^{ニル}占^レ於佛法興行立不^レ之處佛法護持多門天從^レ地涌出太子奉^ニ拜^レ之^ヲ則太子与毗沙門^秘蜜通言語餘人爭知^{ヤ其ノ}意趣^ニ云云不思議之奇特未曾有之勝瑞何事如^レ之乎太子即日佛殿左方壁板下^ニ震筆^ニ圖^ニ繪^レ彼時之^ヲ將^ニ多^ニ伽藍四邊奉^ニ埋^ニ四^ニ大天王之形^ヲ躰^ニ示^ニ結界守護之誓^ヲ表^ニ常住不懷^{マヤ}之志^ニ耳抑^ニ此所^ヲ号^ニ刀田^ニ故者敏達天王十二年^卯自^ニ百濟國^ニ來朝日羅奉^ニ拜^レ太子^ニ露^ニ頭^ニ本地^ニ之後欲^ニ歸^ニ本國^ニ太子頻有^ニ御留^ニ雖然強^ニ逃^ニ下^ニ之時太子為^ニ留^ニ之現^ニ神力^ニ而以^ニ數万之刀^ニ逆^ニ樣^ニ立^ニ置^ニ於當所之地^ニ給^ニ時^ニ日羅大怖畏而從^ニ此處^ニ立返^ニ奉^ニ拜^ニ太子^ニ云云然則利生方便之春花^ハ久^シ勾^テ而馥^ニ尊崇^ニ之窓^ニ伽藍洪基^ノ之秋菓速熟而結^ニ渴仰之梢^ニ焉嗚呼言語道斷而非^ニ脣吻所^ニ及乎尋^ニ其本地^ヲ者救世觀音也謂^ニ其垂迹^ニ者吾朝王子也百濟國日羅

礼文曰

敬礼救世觀世音 傳燈東方粟散王

從於西方來誕生 開演妙法度衆生

貴哉仰^ニ彼灵德^ヲ者現世所求皆成就^ニ此神力^ハ者當來願望悉圓滿^ニ宜^ニ奉^ニ拜^ニ禪^ニ救世觀音之悲願^ヲ奉^ニ仰^ニ聖德太子之靈德^ヲ者也仍注^ニ舊記^ニ旨大略所錄緣起如^レ件

大寶二年^{歲次} 二月廿二日 沙門聖乘敬白

朝弼書之

鶴林寺史料目録

凡 例

一 当寺既存目録では所蔵史料を、(一) 文書の部、(二) 冊子の部、
(三) 地図、(四) 西園寺関係文書、の四項に分類しているが、今回、
そのとき整理されなかった木札・棟札等、同寺塔頭(宝生院・浄心
院) 架蔵の文書、その他も加え、全体を、一 文書の部、二 冊子
の部、三 西園寺関係文書、四 塔頭文書、五 絵図、六
棟札・銘文、七 雑、に分類した。但し銘文のうち、石塔類は
中世のものに限った。

一 史料目録の記載は、1 表題、2 (内容)、3 写であれば〔写〕、4 作
成者又は差出人・宛名、5 作成年次、6 数量、7 整理番号、の順に
従った。7 整理番号は既存目録に記されたものを尊重した。

一 表題は、近世文書については原史料の題名をとったが、題名を欠
くものについては(内容)で示した。

一 (内容)には、史料の意味内容の要約のほか、備考的なものも含

む。なお、表題によってその史料の内容が明らかな場合は、これを
省略した。

一 写であることが明瞭な場合に限り、〔写〕と記した。

一 作成者又は差出人・宛名については、できるだけ簡単な形で記し
た。

一 作成年次は、年号のない場合の他は干支を省略した。

一 二 冊子の部、三 西園寺関係文書、四 塔頭文書、五

絵図、六 木札・銘文、七 雑、の整理番号については、便宜、
整理番号の上にそれぞれ「冊」、「西」、「宝」、「浄」、「図」(既存目
録では「地」、「銘」、「雑」の文字を冠した。

一 数通の文書が一括されながら、整理番号が分散しているものにつ
いては、*、**の記号を付して示した。

以上

一 文書の部

羽柴秀吉禁制写 (木札)	天正六年三月二五日	一	三一
豊臣秀吉禁制写 (木札)		一	三二
某禁制	天正六年六月	一	三三
羽柴秀吉判物	天正八年九月朔日	一	三四
実善書状 (折紙)	天正一〇年正月二〇日	一	三五
赤松政村書状	十一月三日	一	三六
角田佐家・浦上国秀連署折紙	十二月二日	一	三七
梶原景□書状	六月二六日	一	三八
黒田職隆書状 (折紙)	十一月二日	一	三九
小寺祐隆書状 (折紙)	正月二日	一	四〇
杉原家次書状 (折紙)	八月二九日	一	四一
政宗書状案 (折紙)	一〇月一〇日	一	四二
豊臣秀吉朱印状	一〇月一五日	一	四三
梶井宮令旨	七月二七日	一	四四
元長折紙	二月二日	一	四五
泰興書状 (折紙)	六月二三日	一	四六
某書状	七月二日	一	四七
小田盛次書状 (折紙)	三月二日	一	四八
増田長盛書状 (折紙)	三月三日	一	四九
中春安・下村久次連署書状 (折紙)	二月二日	一	五〇
大法師某・左衛門尉平某浮免寄進状	文永五年一〇月五日	一	一
長田三郎景資仏像・下地寄進状	文明一五年二月五日	一	二
山名政豊禁制 (木札)	文明一六年八月	一	三
塩田有政大般若経寄進状	文明一九年卯月一四日	一	四
鶴林寺聖靈会々式 (折紙)	明応四年二月九日	一	五
津田家職折紙	天文一〇年二月三日	一	六
安宅冬康禁制 (木札)	天文三年二月四日	一	七
池田勝正禁制	永禄二年正月	一	八
池田勝正禁制写 (木札)	永禄二年正月	一	八
織田信長禁制朱印状	永禄二年三月	一	九
織田信長禁制写 (木札)	永禄二年三月	一	九
某禁制写 (木札)	天正六年三月	一	九
織田信長禁制写 (木札)	永禄二年一〇月一四日	一	一〇
信直禁制	天正六年五月一七日	一	一一
羽柴秀吉禁制	天正六年三月二五日	一	一二

淀状之事（鶴林寺衆議淀状）	慶長三年一〇月吉日	一	三	院・円覚院より増位山・書写山宛 卯月二〇日	一	四
（松平玄隆折紙） 松平武蔵守玄隆（池田利隆）より鶴林寺宛	慶長一八年二月二五日	一	三	奉納重物之事（慈眼院所持重物奉納に付） 慈眼院		
（朱印状写）〔写〕 鶴林寺宛	元和三年九月二一日	一	三	津田三碩弟子九名より鶴林寺八坊出家衆中宛	延宝八年三月八日	一
（病氣見舞御札等の書状） 津田三碩より鶴林寺惣中宛	九月晦日	一	三	（扇子持参に付札状） 榊原刑部大輔政房より刀田山谷坊宛	三月二三日	一
（朱印状写及朱印状目錄・元和三年九月二一日より万延元年九月二一日迄）〔写〕		一	三	（扇子持参の札及び家督相続に付） 榊原刑部大輔政房より東田坊宛	六月四日	一
（朱印状写）〔写〕 鶴林寺宛	寛永一三年一月九日	一	三	（当山再興に付） 南光房以下六名より刀田山学侶中宛	七月二七日	一
播州刀田山衆中被仰出之条々（旧宗復興に付門主仰出趣） 常照院・寒松院より刀田山住侶宛	万治三年二一月二六日	一	三	本寺書出シ之事（法度遵守等誓約）〔写〕 宝生院等		一
淀播州刀田山（輪王寺宮よりの台門行事条々） 住心院・園覚院より刀田山惣中宛	寛文二四年四月二一日	一	三	九名より宗門奉行宛	宝永六年八月	一
淀（輪王寺宮よりの台門行事条々）〔写〕 住心院・園覚院より刀田山惣中宛	寛文二四年四月二一日	一	三	仏損次第（薬師座像・月光立像・毘沙門・伊多天破損箇所）		一
刀田山鶴林寺永代宝物（津国玉作信蓮社覺譽崇輪よりの寄進物目錄） 口称念仏行者崇輪より刀田山惣中宛	寛文一三年底鐘月二二日	一	三	覺（朱印高諸役御免許相違なきに付）〔写〕 真光院		一
（大坂医師津田三碩薬師堂建立願に付書状） 住心		一	三	より京都町奉行宛	享保六年六月	一
		一	三	（朱印高雛形） 何国何郡何村何宗何寺より奉行宛	享保六年何月	一
		一	三	以書付奉願口上覺（播州六山祈祷大般若会に付挨拶）		一
		一	三	八徳山・妙徳山・普光寺より刀田山惣中宛	享保七年極月	一

刀田山年行事宝生院より寺社奉行所宛 宝曆五
付属願

年二月

覺（人別改） 鶴林寺より宗門奉行所宛 宝暦六年五月

一五目

御願申上候事（新開芝地買請分檢地赦免願控） 刀田

山惣中豊田半弥宛 宝曆六年二月

〔若殿着城祝儀献上の為登城許可願控〕〔写〕 光明

院より宗門奉行所宛 宝曆八年三月

御伺申上候事（若殿へ祝儀献上の為登城伺控）〔写〕

刀田山惣中より寺社奉行所宛 宝曆八年三月

差上申御請書之事（地所猥りに寺院へ寄附する事停

止の触書請書）〔写〕 鶴林寺八院より寺社奉行所宛 宝

曆二年三月

覺（郡切人別改）
鶴林寺より宗門奉行所宛
宝曆一二

年閏四月

(朱印状写) 〔写〕 宝曆二年八月二日

覺（慈覺大師九百年御忌法会に付捧納金受取覺）

寶曆三年二月四日

御断申上候事（光明院病氣に付朱印を慈恩院へ渡さ

刀田山鶴林寺より寺社奉行所宛 宝曆

一三年二月二日

掟（輪王寺一品親王の嚴命による掟書）〔写〕 源信

解院大僧都守玄・大覺王院大僧都慈秀より刀田山惣中宛

明和四年二月

掟（輪王寺一品親王嚴命による掟書） 源信解院大僧

都守玄・大覚王院大僧都慈秀より刀田山惣中宛 明和四年

二月

覺（郡切人別改）
鶴林寺より宗門勘定所宛
明和五年

六月

指上申御断書之事（葵御紋使用に付控）〔写〕 刀田

山鶴林寺より寺社奉行所宛 明和五年九月

覺（郡切人別改）〔写〕
鶴林寺より宗門奉行所宛 明

和五年

借用申金子之事（江府より御召の旅用金借用）

口里村九郎右衛門より刀田山年行事龍禪院宛 明和六年六

月一〇日

差上申一札之事（本寺庭前水茶屋建設に付）
安田

村藤八より刀田山惣中宛 明和六年六月

御断申上候事（宝生院弟子了盛眞光院住職兼帶に付

〔写〕 刀田山惣中・同山宝生院より寺社奉行所宛
(断控)

明和六年一〇月	一	六	〔写〕 惣中より寺社奉行所宛 明和八年一二月	一	六
指上申一札之事 (梅松院・尾上住吉大明神訴訟出入に付) 浜宮天神別当代刀田山浄心院より奉行所宛 天保一二年八月	一	六	書付以御願申上候事 (殿様御逝去に付牌前一札仕度願) 刀田山惣中より宗門奉行宛 明和九年九月六日	二	六
書付以御断申上候事 (網代興使用寺院無きに付断書控) 〔写〕 鶴林寺惣代真光院より大坂町奉行所宛 明和七年二月二九日	一	六	(尾上出入之儀内済に付書状) 密蔵院貫純・真如院 寛印より刀田山惣中宛 八月九日	一	六
書付以御断申上候事 (色衣・網代乗物許容願) 刀田山惣代真光院より大坂町奉行所宛 明和七年二月	一	六	(浜之宮との金子出入に付書状) 宝勝院貫純より梅松院宛 一二月四日	一	六
書付以御願申上候事 (梅松院江戸表下居に付印形指延願) 刀田山惣代真光院より大坂町奉行所宛 明和七年二月	一	六	(聖徳太子一千百五十年御忌法事執行・自作植□之太子令開張に付寄付を募る口演) 刀田山年行事真光院・会行事龍禪院より春之新辺大工諸職人衆中宛 正月一〇日	一	六
御断申上候事 (参勤の御目見に付登城伺) 刀田山年行事真光院より宗門奉行所宛 明和七年三月二〇日	一	六	指上申覚書之事 (殿様帰城に付献上物書上控) 〔写〕	一	六
指上申口上書之事 (本寺内某寺網代興乗物使用許可に付指上控) 〔写〕 刀田山惣代真光寺より寺社奉行所宛 明和七年三月	一	六	刀田山惣中より寺社奉行所宛 安永二年一〇月	一	六
御願申上候事 (太子御自作身像開扉の札立願) 〔写〕	一	六	書付以御届申上候事 (秋葉権現の祭礼に子供花相撲興行の届控) 〔写〕 刀田山惣中より寺社奉行所宛 安永三年七月二二日	一	六
刀田山惣中より寺社奉行所宛 明和八年一二月	一	六	一札之事 (西国修行中悴喜太郎病死に付葬儀願) 〔写〕 因州石井郡西場村辰右エ門より刀田山役寺宛 安	一	六
御断申上候事 (太子自作御身像開扉の件に付控)	一	六		一	六

永三年七月二四日	一	一〇三	以書付御願申上候事（刀田山伽藍修復に付）〔写〕	一	二二二
奉指上御届書之事（浜宮別当梅松院一件に付）宝生院より大坂奉行所宛 安永三年八月五日	一	一〇三	刀田山惣代より宗門奉行所宛 安永五年一〇月	一	二二二
乍恐口上（浜宮梅松院一件に付）宝生院より奉行所宛 安永三年八月六日	一	一〇四	乍恐御願奉申上候事（七宮神殿及刀田山伽藍修復に付）〔写〕 梅松院・宝生院より執当中宛 安永七年正月六日	一	二二三
乍恐口上（太子御影及寄付に付）宝生院より奉行所宛 安永三年八月二五日	一	一〇五	書付以御願申上候事（刀田山本堂修復費用并人足に付）〔写〕 刀田山惣代宝生院より宗門奉行所宛 安永六年八月	一	二二四
奉指上御届書之事（浜宮梅松院一件に付）宝生院より奉行所宛 安永三年八月	一	一〇六	（伽藍修復に付礼状）〔写〕 とた山惣代より覚□法印宛 正月一五日	一	二二五
以書付御願申上候事（伽藍修復及太子報恩会費用に付）刀田山惣代浄心院より宗門奉行宛 安永三年八月	一	一〇七	御願申上候事（刀田山伽藍修復に付） 安永六年六月内、御伺申上度重書（伽藍修復費用充當に付）〔写〕	一	二二六
乍恐口上（太子御影報恩会に付）宝生院より奉行所宛 安永三年九月八日	一	一〇八	（本堂修復費用に付願書・一部）御届申上置候事（刀田山寺領に付） 宝生院	一	二二七
書付以御願申上候事（伽藍修復頼母子に付）〔写〕刀田山惣代宝生院より宗門奉行所宛 安永四年五月二四日	一	一〇九	乍恐書付を以奉願上候（伽藍修復費に付助力願）〔写〕 刀田山鶴林寺講中惣代・一山惣代より滋賀院役所宛	一	二二八
書付以御願申上候事（刀田山御開帳に付）刀田山年行事宝生院より宗門奉行所宛 安永五年二月	一	一一〇	安永七年正月	一	二二九
修履願書入（包紙）	一	一一一	一札之事（刀田山修復に付本山への願出費用負担承諾一札） 藤江村伊藤徳兵衛他三名より刀田山鶴林寺宛	一	二三〇
乍恐口上（浜宮普請に付）〔写〕 梅松院・惣中より執当宛 正月一七日	一	一一二	安永七年二月	一	二三一

勸進元加東郡北野村八蔵等二名より鶴林寺年行事所宛 天明六年三月	一三〇	御窺申上候事（山城国紀伊郡稻荷社勸化順行に付地所借用願） 天明九年二月	一	一五
覚（鶴林寺人別改覚）〔写〕 鶴林寺より宗門奉行所宛 天明六年五月一七日	一三一	以書付御届申上候事（真光院修復用材に浜之宮松枯木使用に付）〔写〕 浜之宮別当代浄心院より宗門奉行所宛 天明三年	一	一四〇
覚（鶴林寺人別改覚）〔写〕 鶴林寺より奉行所宛 天明六年六月	一三二	書附以御願申上候事（伽藍大破修復に付）（刀田山本堂建立に付書状） 宝勝院蒙檀より真光院宛 九月一六日	一	一四一
口上之覚（先住隠居跡目に付届）〔写〕 刀田山浄心院住持周慶・年行事宝生院より奉行所宛 天明七年七月	一三三	奉願上口上覚（当山諸堂大破に付勸化色衣着用願）乍恐口上（伽藍破壊修復に付勸化願） 刀田山真光院・惣代宝生院より松平石見守役人中宛 八月	一	一四二
奉行所宛 天明七年八月	一三四	（諸堂・自坊等再建勸化に付書状）〔写〕 三光坊	一	一四三
乍恐御内々弁書（刀田山勸化に付）〔写〕 御領中大庄屋より御月番内藤弥十郎宛 天明七年九月	一三五	五月	一	一四四
（当山諸堂修復勸化御免に付書状） 刀田山会行事・執行事より御領中大庄屋役所・町方役所宛 天明七年一〇月	一三六	乍恐奉言上候（刀田山諸堂再建勸化に付） 刀田山惣代龍禅院・宝生院より執当中宛	一	一四五
以書付御届申上候事（当山普賢院無住に付比叡山宝積院弟子昌純入院届）〔写〕 刀田山惣中・同年行事宝生院より宗門奉行所宛 天明八年	一三七	（諸堂伽藍修復勸化に付書状）〔写〕 八月	一	一四六
以書附御願申上候事（御祈禱札献上に付） 浜之宮別当真光院より宗門奉行所宛 天明八年二月	一三八	覚（材木代覚）（勸化集銀相渡状） 新野部村世話人より浄心院・真光院宛 卯二月	一	一四七
	一三九	奉願口上之覚（三重宝塔修復願）	一	一四八

一五九二

一五九三

一六

一六二

一六三

一六三*

一六四*

一六五

三六

一六七

回章（薬師講集會に付） 刀田山大会所真光院より法華			奉行所宛 寛政六年閏二月		一六
山惣中他二三名宛 三月一〇日	一	一六	口上覚（細田村観音寺再建に付）〔写〕 宝生院代浄		
乍恐御同奉申上候（稻荷社惣代の勧物取集に付）			泉房より宗門奉行所宛 寛政六年閏二月		一六
刀田山惣代真光院・浄心院より奉行所宛 寛政元年三月	一	一六	（自坊本堂庫裏再建に付届）〔写〕 真光院より宗門奉		
乍恐御同奉申上候（二六下書） 寛政元年三月	一	一七〇	行所宛 寛政六年閏二月		一八〇
送り手形之事 比叡山執行代雙蔵院より刀田山役僧中宛			（刀田山本堂屋根普請延引に付届）〔写〕 惣代真光		
寛政二年四月	一	一七二	院より宗門奉行所宛 寛政六年閏二月		一八二
口上書（生国年令御改に付） 刀田山執行事宝生院より			（浜之宮天神社再建に付届）〔写〕 真光院より宗門奉行		
宗門奉行所宛 寛政二年五月	二	一七三	所宛 寛政六年閏二月		一八三
以書付御届申上候事（真光院へ弟子入室に付）〔写〕			（刀田山本堂普請に付届）〔写〕 惣代真光院より宗門		
真光院・宝生院より宗門奉行所宛 寛政二年五月	一	一七三	奉行所宛 寛政六年閏二月		一八三
覚（鶴林寺人別改に付）〔写〕 鶴林寺より宗門奉行所			口上覚（刀田山本堂他寺中普請に付）〔写〕 惣代真光		
宛 寛政四年六月八日	一	一七四	院より宗門奉行所宛 寛政六年閏二月		一八四
奉指上断書（鶴林寺人別改に付）〔写〕 刀田山執行			口上覚（出坂留守中の役に付）〔写〕 真光院・宝生		
事宝生院より奉行所宛 寛政四年九月	一	一七五	院より宗門奉行所宛 寛政六年閏二月		一八五
（鶴林寺人別改に付）〔写〕 鶴林寺より奉行所宛 寛			一札之事（借用銀返済延引に付）〔写〕 黒茶屋丹蔵		
政四年九月	一	一七六	より真光院宛 寛政七年七月		一八六
（浜之宮神殿再建に付届）〔写〕 真光院より宗門奉行			奉頼口上（在町并松平左兵衛佐領分での勧化に付）		
所宛 寛政六年二月	一	一七七	真光院より宗門奉行所宛 寛政七年八月		一八七
（観音寺再建に付届）〔写〕 浄心院代真光院より宗門			奉願口上（本堂修復材木に付） 真光院より宗門奉行所		

宛 寛政七年八月	一八	(山門より回文に付書状) 洺照寺より刀田山宛 辰	一五五
奉願口上覚(黒茶屋一件に付) 真光院より宗門奉行所宛 寛政七年一〇月	一八	一一月二九日 (叡山御触書持遣に付書状) 洺照寺より刀田山執行所宛 五月一九日	一五五
奉願口上(本堂修復勸化に付) 惣代真光院より宗門奉行所宛 寛政七年十一月	一九〇	備後山口大学希一墓碑文写〔写〕 寛政八年霜月 (三斗二升の覚) 北安役所より刀田山御役寺宛 辰	一五五七
奉願口上(判替に付) 真光院より宗門奉行所宛 寛政八年一〇月	一九一	二月 (大坂番所御朱印改触書の常光寺請取入) 天明七年	一五五八
覚(御添翰等申請に付) 真光院より宗門奉行所宛 寛政八年一〇月	一九三	覚(大坂番所触書請取) 常光寺より刀田山浄心院宛 天明七年四月一三日	一五五九
覚(御添翰申請に付) 真光院より宗門奉行所宛 寛政八年一〇月	一九三	覚(大坂番所触書請取) 常光寺より刀田山浄心院宛 天明七年四月二九日	一五五〇
御届奉申上候事(真光院判替に付) 真光院より宗門奉行所宛 寛政八年一〇月	一九四	覚(大坂番所触書請取) 常光寺より刀田山浄心院宛 天明七年七月二三日	一五五二
(寛政八年一一月二〇日より諸々掛合書等以下二三通入袋) 執行事龍禪院周盛	一九五	覚(大坂番所触書請取) 常光寺より刀田山浄心院宛 天明九年正月二二日	一五五三
覚(掛銀受取覚) 福勝寺より刀田山執事龍禪院宛 辰一一月三〇日	一九五	大坂番所触書請取覚書式	一五五四
葛鼓張様伝書 元和三年卯月	一九五	(浄心院寺地焼失に付書状) 覚成院・宝勝院より刀田山惣中・浄心院宛 三月二二日	一五五五
(忌明に付挨拶書状) 高須兵次より真光院宛 七月五日	一九五	覚(東叡山御廻章等請取) 広嶺山月番所より御執行	一五五五

事所宛 巳年九月二十九日	一	一五十六	乍恐奉願上候(本堂修復に付) 刀田山惣代真光院より	一	一六
(殿様御参府御祝儀に付心得の触) 大家町大庄屋			宗門奉行所宛 寛政一〇年三月	一	一六
所より庄屋中宛 閏四月一〇日	一	一五十七	乍恐奉言上候(浜之宮天神并刀田山本堂再建の勧化に付) 刀田山惣代より楞伽院法印・功德院法印宛 寛政		
奉願口上(上坂御添輪に付) 龍禪院・普賢院より宗			一〇年八月	一	一六
門奉行所宛 寛政八年九月	一	一五十八	乍恐口上(本堂修復に付長崎勧化巡行願)〔写〕真		
送手形之事 江州比叡山執行代より刀田山役僧中 文	一	一五十九	光院より楞伽院法印宛 寛政一一年六月	一	一〇〇*
化五年四月	一	一六〇	請雨修行差定 会行事 寛政一一年七月	一	一〇一
銀四百五分覚 会本より刀田山分 一一月二二日	一	一六十一	(御蔵米返済延引に付願)	一	一〇二
老刃八分の覚 源兵衛より刀田山宛 巳年正月二七日	一	一六十二	御届奉申上之事(観音寺は除地に非ざるに付)〔写〕	一	一〇三
油帟包請取覚 津国屋重太郎より真光院宛 巳年六月	一	一六十三	宝生院より円覚法印・楞伽院法印宛 文化元年八月九日	一	一〇四
二七日	一	一六十四	一札(弟子引越に付) 紀州浜中湯照院より刀田山執行	一	一〇五
覚(大阪番所触書請取) 常光寺より刀田山龍禪院宛	一	一六十五	事所宛 文化三年九月	一	一〇六
巳年五月一三日	一	一六十六	送手形之事 比叡山執行代より刀田山役僧中宛 文化五	一	一〇七
(送手形以下二通入包紙) 比叡山執行代(天明八年三月)	一	一六十七	年四月	一	一〇八
送り手形之叟 比叡山執行代延命院より刀田山役僧中	一	一六十八	讓渡申御田地之事 寺家町組加古彦太郎より刀田山惣代	一	一〇九
宛 天明八年三月	一	一六十九	宛 文化五年四月	一	一一〇
引越手形之事 東叡山執行代より刀田山役僧中宛 寛	一	一七〇	口上覚(梅松院印形の儀に付) 宝生院より宗門奉行宛	一	一一一
政九年一二月	一	一七十一	文化六年二月	一	一一二
引越手形之事 清水寺目代全性院より刀田山御執司所宛	一	一七十二	御拝借銀之覚〔写〕 宮西村源兵衛より刀田山真光院宛	一	一一三
寛政九年一二月	一	一七十三			

文化一〇年十一月	一	三〇	蔵米返納に付) 宗門奉行所宛 文政三年四月	一	三八
借用申銀子之事〔写〕 北在家村一学より三木平山町福田屋八郎兵衛宛 文化一〇年十二月	一	三〇	御拝借口上書之事(善光寺如来出開帳に関する拝借蔵米返納に付)〔写〕 宗門奉行所宛 文政三年四月	一	三九
借用申銀子之事〔写〕 光明院・浄心院・宝生院・持善院より北在家村一学・同武右衛門宛 文化一〇年二月	一	三〇	預申銀子之事 新野辺村銀主預主等より明石無量光寺宛 文政三年二月	一	三〇
預り申銀子之事 半田村百姓より惣中宛 文化一二年六月	一	三二	伝教大師一千年忌御香資献上受取并行光坊普請奉納之受取入(以下三通入包紙)	一	三三
預り申銀子之事 口里村百姓より惣中宛 文化一二年六月	一	三三	捧納之事(開山大師千年御忌に付奉納落手) 四谷会行事より刀田山惣中宛 文政四年五月	一	三三一
預申銀子之事 宝生院より惣中宛 文化一四年五月	一	三三	覚(開山大師千年御忌に付奉納落手) 法会会行事執行代より刀田山惣中宛 文政四年五月	一	三三一
奉願上口上覚(聖德皇太子千二百回忌法事に付開帳願)〔写〕 衆徒惣代宝生院より宗門奉行所宛 文政元年一〇月	一	三四	覚(当宝勸物銀落手) 行光坊用部屋より刀田山惣中宛 文政四年六月九日	一	三三一
口上覚(聖德皇太子千二百回忌開帳年月日に付)	一	三五	御窺奉申上候事(両上様へ御祝儀金献納に付伺)	一	三三
〔写〕 宗門奉行所宛 文政元年一〇月	一	三五	真光院より宗門奉行所宛 文政六年正月	一	三三
口上覚(聖德皇太子千二百回忌開帳の五札に付願)	一	三六	弟子送り一札之事 明石郡宝福寺より刀田山行事所宛 文政七年二月	一	三三
〔写〕 文政元年一〇月	一	三七	有信講掛銀請取覚 行光坊役人より刀田山宛 文政七年四月	一	三四
口上覚(聖德皇太子千二百回忌開帳の五札に付願)	一	三七	(神祇道講解巡回に付達)〔写〕 宗門改所より御着組御拝借口上書之事(善光寺如来出開帳に関する拝借		

以下一二組宛 文政一〇年九月二〇日

預申銀子之事 真光院・浄心院より布屋善兵衛宛 天保

二年四月

覚（大歳氏関係金銭に付） 天保二年七月

覚（銀札請取） 大歳吉左衛門より刀田山宛 天保二年一

〇月八日

覚（米代銀請取に付） 大歳吉左衛門より刀田山宛 天

保三年二月

御朱印畝高明細書三通入（以下四通入包紙）

（松平玄隆折紙）〔三の写〕 松平武蔵守玄隆より鶴林

寺宛 慶長一八年二月二五日

御朱印御高余与申儀御尋ニ付申上候事 龍禪院より

宗門奉行所宛 天保五年三月

覚（寺領田畑高書上）〔写〕

元文五年算用之節安田村半大夫・同村左内兩人間

寺仕置申候（田畑略図面） 鶴林寺大衆判 元文五年

一月二八日

御朱印御領主御渡之儀記録（以下一三通入袋）

惣代宝生院盛隆 天保一二年二月七日

先触（御朱印状道中差支無き様依頼） 刀田山役者

より加古川宿姫路宿迄駅所并川方役人宛 子年二月

五日

（万福寺勸化御免の回章に印形押達に付注意）

住心院鈴明・信解院慈巽より刀田山行事浄心院宛 三月

二二日

覚（御朱印請取の節役料受取に付） 井上真十郎よ

り宝生院宛 二月一四日

覚（酒料等受取に付） 井上真十郎より宝生院宛

覚（朱印請取の節御茶料等請取） 井上真十郎より

宝生院宛 二月一四日

覚（朱印請取に付） 井上宛 二月一四日

覚（金銭目録） 刀田山御用宛 子年二月

覚（御朱印状渡等に付宗門改所等よりの達）〔写〕

大庄屋所より安田村庄屋宛 二月三日

御朱印請取入用 子年二月六・七日

宝生院分覚（入用覚）

（入用覚）〔写〕

（下馬札起立御尋に付返答の書状控） 刀田山執行事

宝生院より功德院法印宛 天保一三年四月二七日

弟子送り一札之事 明石実相院より刀田山宛 天保一四

年三月	一	三三	先触(御朱印状道中差支無き様依頼) 刀田山役者より加古川宿る姫路迄駅所并川方役人中宛 巳年正月二	一	二四〇一
(大御所様葬送に際し納経拜礼参府に付達)〔写〕			三日		
龍王院・功德院より 二月一五日	一	三四	覚(御朱印請取に付) 鶴林寺惣代より姫路宗門方役所宛 文久二年三月六日	一	二四〇二
文恭院様御納経諸記録 惣代真光院光盛 天保一二年	一	三五一	覚(日雇賃金請取に付) 川西屋次郎兵衛より刀田山役人衆中宛 巳年正月	一	二四〇三
七月			七月		
法談所御仮御靈屋御序之絵図(文恭院様御納経参府の節)〔写〕	一	三五二	覚(御朱印關係金錢覚) 蝶屋利助より刀田山御用宛	一	二四〇四
慎徳院様納経拜礼記録(惣代普光院記) 嘉永七年	一	三五三	覚(御祝儀受取に付) 加古川川役人より刀田山宛 安政四年正月二七日	一	二四〇五
正月			覚(御朱印請取の節御賄諸入用) 井上真十郎より		
差入申一札之支(御山雜穀門前にて売買仰付けられるに付) 平野村布屋久治郎より刀田山惣中宛 弘化四年	一	三六	刀田山年行事宛 二月三日	一	二四〇六
四月			覚(御朱印關係金錢覚) 蝶屋利助より刀田山御用宛 正月二七日	一	二四〇七
差入申一札之事(雜穀御店銀に付) 布屋久治郎より	一	三七	覚(御朱印受渡に付) 寺家町大庄屋より安田村庄屋宛 正月一八日	一	二四〇八
刀田山行事所宛 弘化五年正月			(宝塔修復に付披露案内の刀田山執行事書状)		
乍恐奉差上願書之事(糶商売に付)〔写〕 新野辺組	一	三八	善楽寺惣中他連名宛 四月	一	二四〇九
北在家村糶屋惣代・庄屋等より伊田小右衛門役所宛 嘉永			乍恐奉願上候(表色衣着用願) 行事真光院より住心院		
四年四月	一	三九			
朱印状写〔写〕 安政二年九月二一日	一	四〇			
家定公御朱印姫路城主ヨリ請取諸記録帳面入(袋)					
惣代真光院光盛宛 安政四年正月二五日	一	四〇			

法印宛 安政五年一〇月	一	二四二	(挨拶金に対する礼状)	松高院亮惇より真光院宛 九月二二日	一	二五二
(御朱印請取に付達) 寺家町大庄屋より安田村庄屋宛 正月四日	一	二四三	先触(御朱印御下に付) 刀田山役者より加古川宿へ姫路迄駅所并川方役人中宛 戊辰三月四日	一	二五三	
往来手形一札之事 西宮円福寺より国々所々御関所村々町々役人中宛 万延元年閏三月	一	二四三	(備前国仏心津寺靈像に付礼状) 玄門智幽・靈空光謙より鶴林寺合衆中宛 十一月二九日	一	二五三	
覚(御朱印請取) 惣代浄心院より姫路宗門方役所宛 文久二年三月六日	一	二四四	(厳有院三三回忌御経衆に付播磨国天台宗惣代寺院への回状)〔写〕 信解院・恵恩院より 辰年二月	一	二五四	
(勤王誓詞) 刀田山龍禪・持善・慈恩・浄心四院より池田図書之介・池田隼人宛 慶応四年二月	一	二四五	(宝塔修復披露に付招待廻文) 刀田山執行事より 長砂村等一六村役人中宛 四月五日	一	二五五	
旧幕府朱印(目録) 惣代持善院より山門三執行代宛 慶応四年八月	一	二四六	納経之覚(公方様御他界御葬送に付)〔写〕 播磨国天台宗諸惣代 八月	一	二五五	
乍恐奉願上候(刀田山一蕩跡目に付) 光明・持善・浄心・慈恩院より仏頂院法印・真覚院法印宛	一	二四七	(絵図持参に付御用状) 宗門役所より宝生院宛 七月二三日	一	二五七	
指上申御断書付之事(葵御紋使用に付) 鶴林寺より寺社奉行所宛 明和六年九月	一	二四八	(登城に付御用状) 宗門役所より刀田山役僧中宛 七月一六日	一	二五八	
(播磨国御料私領地方についての公事訴訟取扱管轄變更に付触書)〔写〕 飛驒・安房より加古郡村々宛 寅(享保七)年二月二九日	一	二四九	(江戸表法事に付御用状) 寺社役所より刀田山宛 六月一〇日	一	二五九	
口上之覚(稻荷社修復に付) 稻荷本宮惣代羽倉筑前介より真光院宛 戊辰二月一八日	一	二五〇	覚(御朱印渡に付) 宗門役所より寺町大庄屋宛 二月二八日	一	二六〇	

乍恐奉願上候覚 (浜之宮天神社地并社領に関する諸事の上訴に付) 〔写〕 一二月	一	二六一	(將軍他界に伴う法事に付達) 〔写〕 信解院・靈山院より播磨国天台宗六カ寺宛 一〇月二十九日	一	二七三
(梅松院一件に付書状) 覚成院考覚より刀田山惣中宛 四月	一	二六三	(米通調印に付御用状) 宗門役所より刀田山行事宛 一二月四日	一	二七四
(將軍厄除祈禱に付達) 住心院より 一二月晦日	一	二六三	覚 (御城御年礼参勤に付) 〔写〕 刀田山年行事より		
(葵紋着用に付達) 〔写〕	一	二六四	御役所宛 亥年二月	一	二七五
(書状) 石田弥右衛門より宝生院宛 一〇月二十五日	一	二六五	覚 (酒肴等入用に付) 三月二十七日	一	二七六
(銀子渡に付) 刀田山会所より伝次郎右衛門・清兵衛宛	一	二六六	覚 (銀子受取に付) 〔写〕 新野辺大歳吉左衛門より刀田山惣中宛 卯年七月七日	一	二七七
(宮様御機嫌菓子料に付書状) 円覚院寂忍他一名より					
刀田山惣中・浜宮別当梅松院宛 閏六月一〇日	一	二六七	覚 (銀子受取に付) 大歳吉左衛門より龍禪院宛 丑年 一二月一五日	一	二七八
(年始祝儀に付書状) 信解院慈巽他一名より刀田山行事浄心院宛 三月一五日	一	二六八	(御朱印受取行列次第) 〔写〕	一	二九一
(有信講に付書状) 行光坊義有より刀田山浄心院主宛 四月四日	一	二六九	(御朱印受取行列役負担者覚) 〔写〕	一	二九二
(銀子貸借に付書状) 孫左衛門・長兵衛より刀田山宝生院宛 八月五日	一	二七〇	(修善院と四山との件に付書状) 銘鶴寺行事原亮より刀田山行事宛 卯月一三日	一	二九〇
覚 (東叡山よりの廻文に付) 善楽寺行事所より刀田山行事坊宛 七月一三日	一	二七一	(金子送付に付書状) 刀田山惣中より覚成院法印宛 四月二三日	一	二八一
覚 (茶代等に付) 清水屋武右衛門より刀田山真光院宛 亥年四月二十七日	一	二七二	京都河原殿焼失に付見舞状・随宜楽院宮薨去三付梅状 (以下三通入包紙)	一	二八三
			(禁裏御所准后河原御殿焼失に付見舞金献上の書		*

状) 二月一六日

(隨宜樂院宮薨去に伴い香具金献上に付書状)

刀田山執行事宝生院より執当中宛 七月二八日

(年頭御祝儀献上に付覚) 刀田山惣中より在年行事所

宛 巳年二月一日

(菅原朝臣宗秀和歌写) [写]

乍恐奉差上御伺書之事(北在家村糶商売に付) [写]

北在家村糶屋惣代市兵衛他三名より 明治二年正月

(管領三門跡令旨) 管領執事より刀田山鶴林寺宛 明

治四年正月

二 冊子の部

鶴林寺々領田目録 永正二二年八月

塩田淨観寄進下地帳 永正二二年八月

鶴林寺々新田惣目録 天文三年八月

刀田鶴林寺御検地帳 慶長六年九月二〇日

刀田寺領分名寄帳 慶長七年九月吉日

法隆寺々辺斑鳩宮聖徳太子之御堂再興之勸進帳 勸

二二六二・三

進沙門法隆寺私喜坊 寛永九年正月
太子堂上葺再興勸進帳 寛永一九年八月

刀田山寺領分名寄帳 寛文二年霜月

刀田山寺領分名寄帳 寛文二年霜月

刀田山寺領名寄帳(元禄四年二月二一日写) 寛文二

年霜月

本願寺系図 願光寺宣采 元禄一四年一月二八日

新堂護摩料之田地書物之事 刀田山鶴林寺惣中 延宝

八年八月七日

溝野口組小安村水帳 小安村庄屋武右衛門 享保二年三

月

御朱印御改書付之写(御朱印改につき口上)[写] 鶴

林寺惣代龍禪院より諏訪肥後守御役人中宛 享保三年二月

触書覚(享保四年朝鮮人来朝御入用に付)[写] 享

保六年五月

寺家町組小安村明細帳 庄屋藤次郎・寺中龍禪院他七院

元文二年

播州刀田山惣中と同国東二見村長左衛門訴状返答并

長左衛門誤證文之写[写] 長左衛門より東叡山御役所

宛 元文二年八月六日

御朱印記録 浄心院弘慶より御執当中宛 延享三年五月	一冊六	院座席之事〔写〕 刀田山惣中より覚成院法印宛 安永五年一〇月	一冊六
五箇井記録〔播磨国加古郡平松五箇之井堰由来〕〔写〕			
荒重門 明暦三年一〇月	一冊九	東叡山御執当所へ御覧入之写帳〔写〕 別当梅松院快旭より東叡山執当中宛 安永五年一〇月	一冊九
五箇井来由記 荒重門 明暦三年一〇月	一冊一〇一	刀田山鶴林寺本堂修覆仕用帳控 戊辰正月	一冊一〇
五箇井記録	一冊一〇二	御本尊分荒井新田御年貢算用帳〔戊辰〕寅年 支配人荒井綿屋源左衛門 天明三年三月	一冊三
井堰所并水掛高書上帳〔写〕 井頭九右衛門・宗左衛門より御堰所御役所宛 宝暦七年九月	一冊一〇三	惣大夫新田取米代銀請払帳〔戊辰〕寅年 新野辺村梅谷四郎三郎より刀田山年行事所宛 天明三年九月二十六日	一冊三
一山分有銀帳〔宝暦一二年以来年々奉納御本尊有銀之覚・御本尊借用之覚〕 明和四年一月	一冊二	鶴林寺堂塔修覆助成願〔写〕 刀田山願主宝生院・持善院・浄心院・真光院より宗門奉行所宛 天明五年正月	二冊三
刀田山御尊領入附帳 荒井村支配人源左衛門 明和五年正月	一冊三	棟数目録 刀田山惣代真光院 天明五年正月	一冊四
諸堂修覆願書并諸記録〔写〕 安永三年八月一三日	一冊三	教訓十五箇條〔烏丸光榮和歌教訓・資枝筆〕 天明五年一〇月一三日	一冊五
刀田山鶴林寺由緒書之事〔写〕 安永四年五月	一冊四	本末書上帳〔東叡山月光御門主末鶴林寺〕 宝生院より東叡山御執当中宛 天明六年一〇月	一冊六
〔酒井雅楽頭領分播州加古郡小安村寺社書上帳控〕 安永四年七月	一冊五	本末書上帳〔控・東叡山月光御門主末鶴林寺〕 宝生院より東叡山御執当中宛 天明六年一〇月	一冊七
靈宝書〔写〕 慈恩院秀栄より奉行所宛 安永五年二月一四日	一冊六	御朱印御改記録〔御朱院御改に付参府の覚〕 惣代宝生院 天明八年正月	一冊六
寺社分限書上帳〔写〕 宝生院・梅松院より東叡山執当中宛 安永五年一〇月	一冊七		
乍憚口上書之覚〔明和六丑年浜宮尾上出入之後梅松			

御朱印用書（控） 鶴林寺より宗門奉行所宛 天明八年

二月

勸進帳
寛政元年初冬上旬

記錄別渡帳（文書目録）
鶴林寺執行事
寛政二年霜月

宗門御改帳（宗門改に付本寺書出之事）
鶴林寺衆徒

より石田弥右衛門・米津一左衛門宛 寛政一〇年三月

執行事廻帳（勤仕掟）
寛政一〇年二月

本尊藥師如來入仏開帳記 執行事宝生院誠盛 寛政二

○年

(大坂願に付姫路への御添翰願并東叡山御声掛願記

寛政一二年八月

永記録
寛政六年九月—明治四年五月

大坂山門東叡山御触書写帳（文明八年公儀御触書写

・文政五年迄） 享和元年五月

藥師講規定帳
文化元年六月

播磨国加古郡加古庄浜之宮仮名付帳〔写〕 鶴林寺よ

り勘定所宛 文化元年八月

引渡改仮帳（明和七年より文化元年の文書目録）

執行事竜禅院 文化元年霜月

御尋ニ付書上申候（寺領境界に付）〔写〕 刀田山惣

中より勘定所宛 文化三年極月

播磨国郡村名仮名付帳（御朱印地）〔写〕 鶴林寺よ

り勘定所宛 文化四年四月

今福村氏宮八幡宮社人一件（御被願上口上他）〔写〕

文化八年四月

吉田家御役人江差上申候神社帳〔写〕 今福村・池田

村庄屋より 文化八年三月

御拝借米之事（本堂修理に付寛政八年より）〔写〕

行事宝生院 文化一二年極月

三重之塔再建世話人講連名帳 文化一三年

宝塔再建勸化帖 文化一五年二月

再建三重之寶塔募緣之疏
文化一五年二月

東叡山御觸写（戊二月二〇日より四月一三日迄）

日光御門主様御上洛記〔写〕
惣代上京真光院
文政二

一年一月

御黒印写并境内間地帳（元和五年一〇月二二日より

天保三年二月迄）〔写〕 浜之宮別当代刀田山宝生院

天保三年二月

表色衣願書控（袋入） 天保三年二月

永代表色衣御許容記録（袋入） 天保三年五月吉日

播磨国加古郡之内郷村高帳〔写〕	鶴林寺より勘定所	一	冊三	月	御朱印御書替諸記録控（四月より一〇月二十八日迄）	一	冊三
宛 天保三年一〇月							
播磨国加古郡之内郷村高帳〔写〕	鶴林寺より勘定所	一	冊四一	府惣代真光院光盛・執行事宝生院盛隆 嘉永七年六月	一	冊三	
宛 天保三年一〇月							
播磨国加古郡之内郷村高帳〔写〕	鶴林寺年行事真	一	冊四二	御朱印高書上帳控 鶴林寺より宗門奉行所宛 安政二年	一	冊四	
光院盛隆代 天保四年六月				一一月			
乍恐奉差上返答書之事（常施餓鬼に付）〔写〕	刀田	一	冊五	御朱印姫路御城主ヨリ御渡之記録〔写〕 安政四年正月二五日	一	冊五	
山浄心院檀家より宗門奉行所宛 天保六年一二月		一	冊六	宗門人別増減御改帳 刀田山執行事光明院より宗門奉行所宛 安政五年三月	一	冊六	
御本尊領収納帳 天保八年一二月吉日		一	冊七	御朱印御改記録（五月より一二月迄）〔写〕 総代真	一	冊七	
御朱印御書替諸記録控 行事長吏浄心院恵成 天保九年二月		一	冊六	光院光盛 安政六年八月	一	冊七	
播磨国加古郡刀田山御朱印地書上帳〔写〕	鶴林寺	一	冊六	姫路御城主より御朱印御渡記録 浄心院・真光院 文	一	冊六	
天保九年二月				久二年三月			
播磨国加古郡安間村之内御証文地書上帳〔写〕	浜	一	冊六	家茂公御朱印請取諸雑費控帳 浄心院・真光院 文	一	冊六	
之宮別当梅松院・刀田山浄心院 天保九年二月		一	冊七〇	宗門御改帳（寺内人別改） 鶴林寺衆徒浄心院 圭芳以下三名より原田九郎兵衛・青木平蔵・伊奈平八宛 元治二年三月	一	冊七〇	
播磨国何郡何村之内御朱印地書上帳（雛形）	天保九年	一	冊七	昭徳院様御納経拜礼録〔写〕 慶応二年一〇月	一	冊八〇	
御朱印姫路御城主より御渡之記録〔写〕	惣代宝生院	一	冊七	宗門御改帳（寺内人別改） 鶴林寺衆徒浄心院 圭芳以	一	冊八〇	
盛隆代 天保一一年一二月七日							
宮様御上洛恐悦記〔写〕	惣代浄心院 天保一三年一〇						

下一名より伊奈平八・高須十左衛門・生形閭太郎宛 慶 応三年三月	一	冊八二	(長昌院五〇回忌に付東叡山触書の写) 辰年二月 (大御所様薨去に付納経・東叡山より触書の写) 六月一七日	一	冊九五
宗門人別増減御改帳 刀田山執行事慈恩院 慶応三年三 月	一	冊八三	(社寺本末帳雛形)〔写〕 七月 年中行事(正月〜一二月の一覧)	一	冊九六
諸堂社并寺院建物間数帳 刀田山惣中より大阪府裁判 所宛 慶応四年六月	一	冊八三	鶴林寺諸堂間数覚控 戊午正月	一	冊九七
御朱印写(台徳院より昭徳院迄一一通) 慶応四年八月	一	冊八四	(鶴林寺各坊畝高帳)	五	冊九八
慶応年中御触書写〔写〕 慶応年間	一	冊八五	東海道日光迄人馬駄賃帳 (出銀帳)〔写〕	一	冊九九
覚書(天正八年九月秀吉寄進状の他朱印状・掟・法 度等)〔写〕	一	冊八六	覚(神社帳差上に付) 米通(刀田山、小参事間) 庚午年一〇月	一	冊一〇〇
(明和七年当山普請より寛政八年一二月普請迄の旧 録控)	一	冊八七	(聖徳太子絵伝及び鶴林寺草創縁起に関する草稿)	二	冊一〇一
刀田山鶴林寺由緒寺格〔写〕 御殿代御出張所宛	一	冊八八	宗門人別増減御改帳 刀田山執行事より宗門奉行所宛 明治元年一〇月	一	冊一〇二
覚(寺数人数調につき寺社奉行よりの触書写他) 〔写〕	一	冊八九	宗門 御改帳 都筑清左衛門・吉田孫右衛門宛 明治元年 一〇月	一	冊一〇三
諸要書控(寺請に関する雛形)	一	冊九〇	角力諸入用控 明治三年二月三日	一	冊一〇四
(何国何郡何郷何庄何村仮名他帳他) 享和三年六月	五	冊九一	畝高小前帳 明治四年八月	一	冊一〇五
(東叡山より仰出され候条制写) 住心院・信解院 一〇月二一日	一	冊九二	刀田山鶴林寺元御朱印上ヶ地畝高小前帳 小安村 明治四年八月	一	冊一〇六
公儀御触書写(雛形)	一	冊九三		一	冊一〇七

刀田山鶴林寺元朱印上地畝高小前帳 小安村 明治四年八月

年)二月二十六日

一通冊三一

年八月

一冊二〇

(盆石仙洞御覽一件に付書狀) 元禄一五年二月二

神社御布告 佐々木氏より 明治四年六月

一冊二二

六日

一通冊三一

山門諸寺院江触書写 三執行代・宗務庁・大学頭探

播州鶴林寺聖靈院縁起〔写〕 沙門聖乘 大宝二年二月

題前大僧正より 明治五年七月一六日

一冊二三

二二日

一卷冊三三

(小安村鶴林寺領反別等上り帳写) 明治五年一〇月

一冊二三

(番匠縁起) 天通一林入通藤原朝臣

一卷冊三三

取調書(鶴林寺由緒・建物・宝物等書上) 明治二

一冊二四一

瀟湘八景

一卷冊三四

年以後

取調書(鶴林寺由緒・建物・宝物等書上)〔写〕

幹圭忍他より兵庫縣知事周布公平宛 明治二八年六月二

四日

一冊二四二

三 西園寺関係文書

本堂修繕入仏供養諸入費記載帳 明治三九年五月

一冊二五

西園寺様記録(寄付に付) 西園寺殿より 寛政二二年

信州善光寺如来就出開帳諸入用帳 寛政五年七月二七

一冊二六

一月吉日

一西二

日

一冊二六

(諸堂社修復料に付西園寺家奉書) 西園寺殿御家

本尊開帳諸方医師并諸職人書狀披露名前控帳 寛政

一冊二七

書狀(刀田山什物琵琶御所望に付御寄付の事) 西村

一一年三月一八日

一冊二八

勘解由判官正邦・芦田下總守珍賢より 庚申年八月

東都下向□□(東都下向出錢覚書) 天保三年正月

一冊二九

(御寄附に付西園寺家奉書) 藤井丹後守文宜・西村出

大坂山口東台御触書之写 天保一五年正月吉日

一冊三〇

羽守正邦・芦田下總守珍賢より真光院惣塔中御房宛 寛政

薬師如来講式(声明業清浄金剛宗淵) 嘉永六年

一冊三一

一二年九月

(盆石の件に付惟^(輔カ)奉書) 持明院垂相公宛 (元禄一五

一冊三二

一二年九月

一西四

(西園寺家奉書)〔写〕 寛政二二年九月	一	西五	(御寄附金に付書状)〔写〕 西園寺殿御使武田造酒・ 酒井雅楽頭殿宛 一一月五日	一	西四
連署書状(御祝詞として例年の通日銀一両御献上) 藤井尚弼・芦田珍敬・井上正文より真光院御房宛 九月二 三日	一	西六一	(西園寺殿役所書状) 真光院・住心院宛 一一月二七 日	一	西二五
(鶴林寺との文通に付西園寺殿書記所よりの申入) 西園寺殿書記所より真光院御房宛 九月二三	一	西六二	(西園寺殿役所書状) 真光院・住心院宛 正月一三日	一	西二五三
(年始御礼詞の進物礼状) 浜崎・井上・芦田より真光 院御房宛 三月五日	一	西七	(書状) 藤井掃部より慈恩院宛 二月四日	一	西二六一
(年頭御祝儀の進物礼状) 藤井文宜より真光院御房宛 正月一八日	一	西八	(書状) 加藤采女より慈恩院宛 二月六日	一	西二六二
(年始御祝詞の進物礼状) 藤井文宜より刀田山惣代淨 心院御房宛 二月一八日	一	西九	(書状) 加藤采女より 二月七日	一	西二六三
(年始御祝詞の進物礼状) 井上・幸前・芦田より真光 院御房宛 二月一五日	一	西一〇	四 塔頭文書		
(有栖川宮御末男御元服に付) 芦田・幸前・井上より 真光院御房宛 一一月朔日	一	西二	○宝生院文書		
(八朔御祝詞の進物礼状) 井上・芦田より真光院御房 宛 八月一〇日	一	西三	聖護院准三宮御教書 宝生院御房宛 永禄四年閏三月二 四日	一	宝二
(西園寺家御寄附紫羽二重御幕寸法に付) 藤井・西村 ・芦田より真光院御房并衆徒中宛 寛政二二年一〇月	一	西三	輪王寺一品宮令旨(木蘭色衣着用に付) 宝生院教盛 宛 宝永元年六月朔日	一	宝三
			青蓮院宮令旨(三条袈裟に付) 宝生院成盛宛 寛政一 〇年一一月朔日	一	宝三

三部都法大阿闍梨職印可狀	宝生院周盛宛	文化九年	人別請込手形之事	天保四年正月	一	宝二七
九月二八日			改寺請込一札之事	天保一〇年正月	一	宝二八
延曆寺根本如法堂僧綱職補任狀	真盛宛	文政七年八月四日	改寺証文請取	嘉永七年正月	一	宝二九
竹内宮御室令旨 (三緒五条袈裟着用に付)	真光院宗盛宛	文政八年一〇月	往来一札之事	安政六年二月	一	宝三〇
輪王寺准三宮令旨 (宝生院木蘭色衣着用に付)	天保三年四月		奉公人請込之事	文久元年二月	一	宝三一
三部都法大阿闍梨職印可狀	真光院光盛宛	安政四年九月二一日	過去帳 (寛文年間以後)	過去帳 (天台沙門実海述叙)	一	宝三二
青蓮院令旨 (三緒五条袈裟に付)	真光院純盛	文久二年九月三〇日	過去帳 (寛文年間以後)	歷代過去帳	一	宝三三
輪王寺准三宮令旨 (真光院木蘭色衣着用に付)	慶応元年閏五月		過去帳	平願山觀音寺・真光院長吏 ^(四) 盛 ^口	一	宝三四
追善文 (享保二年往生長吏教盛没後百年忌に付)	寺請一札之事	文政八年九月	過去帳 (明治七年以後)	東照權現公十五條付嚴有院様御条目 ^(五)	一	宝三五
人別放手形之事	天保四年正月		台宗僧侶經歷衣鉢記	享和二年二月二三日	一	宝三六
人別放手形之事	天保四年正月		行法口決・溪嵐拾葉集 ^(六)	元治二年三月七日写	一	宝三七
人別請取一札之事	天保四年正月		沙門亮忍	聲明本 (版本 ^(七) ・伽陀、和讃等)	一	宝三九
			神明三元五大伝神妙紀	謡本「安田吉道」	一	一卷宝冊二〇
			天保奇談雜聚 ^(八)	天保一三年七月二一日写	一	宝冊二
			花術草木養之卷		一	宝冊三
					一	宝冊三

姫路領加古郡石守組野村野新村五人組御改帳	天保三年九月	一	宝冊三	二助・河合惣兵衛宛 安政五年三月	一	宝冊三
播磨国加古郡池田村新田検地帳	天保七年四月	一	宝冊二四	宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より藤本	一	宝冊二四
刀田山鶴林寺修正会法事之作法（宝生院教盛法印書写）	元禄一一年正月二日	一	宝冊二五	二助・河合惣兵衛宛 安政六年三月	一	宝冊二四
人別御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺より勘定所宛	宝曆六年五月	一	宝冊二六	宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より原田	一	宝冊二五
宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より小笠	原新兵衛・藤本二助宛 嘉永三年四月	一	宝冊二七	藤右衛門・深瀬磯太夫宛 万延元年三月	一	宝冊二五
宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より豊	田権右衛門・藤本二助宛 嘉永五年三月	一	宝冊二八	宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より河合	一	宝冊二六
宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より小笠	原新兵衛・荒木卯之藏宛 嘉永六年	一	宝冊二九	惣兵衛・伊奈平八宛 文久三年三月	一	宝冊二七
宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より宗門	奉行小笠原新兵衛・原田藤右衛門宛 嘉永七年三月	一	宝冊三〇	宗門御改帳（袋のみ） 慶応二年三月	一	宝冊二七
宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より荒木	卯之藏・齋藤八百太夫宛 安政三年四月	一	宝冊三一	五人組御改人別増減帳（新野辺組池田村） 池田村組	一	宝冊二八
宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より原田	藤右衛門・深瀬磯太夫宛 安政四年三月	一	宝冊三二	頭・庄屋・大庄屋より萩原小佐久宛 天保九年	一	宝冊二八
宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より藤本	宗門御改帳（鶴林寺中改控） 鶴林寺塔頭八院より藤本	一	宝冊三三	○浄心院文書		
				（刀田山二薦慈恩院良榮木蘭色衣一代着用免許に付		
				准三宮一品親王令旨） 靈山院慈泉・真覺院最妙より正		
				徳三年五月一日		
				比叡山延暦寺三部都法大阿闍梨職之事 山門行光坊		
				已講法印大僧都智観より（刀田山僧万榮宛） 宝曆一一年一		
				〇月一六日		
				三緒五條袈裟之事（播磨国長光寺法印権大僧都広弁		
				木蘭色衣終身着用免許に付青蓮院宮令旨） 寛政一二		
				年一〇月一二日		

(刀田山三鴈慶弁木蘭色衣一代着用許可に付輪王寺
一品大王令旨) 大覺王院大僧都願海・大惠恩院大僧都深
信より 文化二年六月
(惠慶木蘭色衣一代着用許可に付輪王寺一品大王令
旨) 深信解院大僧都慈巽・十住心院大僧都鈴明より 文
政七年七月

五 絵 図

(鶴林寺諸院室所領田配置図)
(鶴林寺境内、屋敷地并手作地等図)
(鶴林寺境内、屋敷地并手作地等図) [図二の写]
(鶴林寺境内略図)
(鶴林寺鳥瞰図)

六 棟札・銘文

木片銘 弘長三年二月二七日

一	太子堂屋根板墨書銘 正中三年	銘三
一	宝篋印塔銘文 曆応二年三月八日	銘三
一	太子堂懸仏銘 康暦元年八月五日	銘四
一	大講堂宮殿棟札 応永四年卯月一五日	銘五
一	法華経板木銘 応永一〇年卯月	銘六
一	山王社棟札銘 応永一三年卯月二〇日	銘七
一	木札片銘 正長元年八月一九日	銘八
一	聖徳太子絵伝箱書 宝徳二年二月	銘九
一	太鼓胴板銘 寛正二年二月一九日	銘一〇
一	文書櫃底書 天文二年	銘一一
一	護摩堂棟札銘 永禄六年卯月中旬	銘一二
一	常行堂東北隅鬼瓦篋書銘 永禄九年二月吉日	銘一三
一	丸瓦篋書銘 永禄九年二月中旬	銘一四
一	丸瓦篋書銘 □□九年二月吉日	銘一五
一	丸瓦篋書銘 永禄九年三月	銘一六
一	太子堂漆塗机朱書銘 天正四年二月吉日	銘一七
一	二王門棟札銘 寛文一二年霜月吉日	銘一八
一	闕衆中禁制札 延宝七年正月	銘一九
一	山王社棟札銘 元禄九年三月吉日	銘二〇
一	南大門棟札銘 元禄一〇年四月五日	銘二一
一	銘二	銘二

鐘樓堂柱墨書銘	元禄一二年三月八日	一	銘三
鐘樓堂棟札銘	元禄一二年麦秋一八日	一	銘三
觀音堂棟札銘	宝永八年四月三日	一	銘四
本堂薬師如来尊像再興札銘	正徳五年八月吉祥日	一	銘五
本堂大棟雁振篋書銘	天明五年	一	銘六
本堂西南化粧隅木側面墨書銘	寛政九年三月吉日	一	銘七
本堂大棟東方獅子口篋書銘	寛政九年夏	一	銘八
大講堂棟札銘	寛政九年一月七日	一	銘九
医王善逝秘法修法札銘	寛政九年一月吉日	一	銘一〇
本堂大棟獅子口側面篋書銘	寛政九年	一	銘一一
大般若經転読札銘	寛政一二年一〇月吉日	一	銘一二
圓頓章版本入箱底書	寛政一二年一二月	一	銘一三
仁王門棟札銘	文化九年六月戊子	一	銘一四
安鎮秘法修法札銘	文化九年六月大吉日	一	銘一五
天台両祖師版本入箱墨書	文政一二年四月	一	銘一六
不動護摩供修法札銘	明治四年正月大吉日	一	銘一七
本堂棟札	明治三十七年二月吉日	一	銘一八
懸仏銘		一	銘一九
瓦篋書銘		一	銘二〇

七 雑

宗門御改帳（刀田山鶴林寺衆徒宗門改）	鶴林寺衆徒より豊田権右衛門・大塚吉左衛門宛	嘉永二年三月	一	雑一
宗門御改帳（刀田山鶴林寺衆徒宗門改）	鶴林寺衆徒より深瀬磯太夫・利根川彦兵衛宛	文久二年三月	一	雑二
宗門御改帳（鶴林寺衆徒宗門改）	鶴林寺衆徒より伊奈平八・高須十左衛門宛	慶応二年三月	一	雑三
鶴林寺諸堂間数覚控（諸堂修復に付）	戊年正月		一	雑四
（宗門奉行宛普請届・朱印書に付奉行宛願雛形・延享四年八月二日朱印写）			一	雑五
六道講式			一	雑六
播州刀田山鶴林寺（版本刷物）	聖靈院大□□より	宝永二年後春	一	雑七
（「元禄年中以来当山請雨秘法日記」・嘉永六年「請雨結願届等控」等）	明和八年八月		一	雑八
太子御親仏添触願控	講中惣代・一山惣代より流智院殿		一	雑九
役人中宛	安永七年二月			

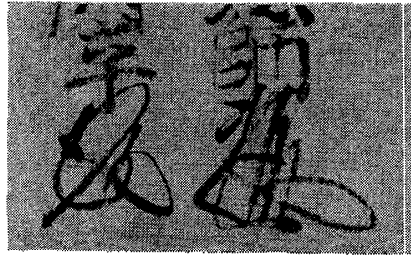
宮様御上洛記録 宝生院 天明六年三月	一	雜二〇	八年四月	一	雜元
表色衣一山惣檀中割合銀控 天保三年一月	一	雜二	(藏米上納に付断簡) 文化頃	一	雜三〇
法華三昧差定 会行司より 弘化二年二月二日	一	雜三	御料供米上納年限相立候承御尋ニ差出申候帳面書付		
法華三昧差定 会行司より 嘉永三年二月二日	一	雜三	入(包紙) 宝生院より 文政二年二月	一	雜三
法華三昧差定 会行司より 嘉永四年二月二日	一	雜四	(断簡) 小野村組頭・庄屋・大庄屋より下田武七郎役所宛		
法華三昧差定 会行司より 嘉永五年二月二日	一	雜五	万延二年二月	一	雜三
法華三昧差定 会行司より 安政五年二月二日	一	雜六	(一都染村大工彦右衛門等の名記載・断簡)	一	雜三
法華三昧差條 会行司より 丑年二月二日	一	雜七	御朱印御改記録入(袋又は包紙)	一	雜四
(大猷院時代御朱印状写) [写] 元和三年九月二日	一	雜八	古文書写入(袋)	一	雜五
(御朱印写) 寛永一三年二月九日	一	雜九	三重宝塔再建勸化帖	一	雜六
(嚴有院時代御朱印状写) [写] 寛文五年七月二日	一	雜一〇	(書状包紙断簡)	一	雜七
(常憲院時代御朱印状写) [写] 貞享二年六月二日	一	雜三	(本堂修復関係文書・包紙)	一	雜八
(御朱印写) 享保三年七月二日	一	雜三	誓状(包紙) 刀田山鶴林寺より	一	雜九
(御朱印写) 延享四年八月二日	一	雜三	御状拾五通(包紙)	一	雜一〇
(御朱印写) 宝曆一二年八月二日	一	雜四	太閤様御墨印(包紙)	一	雜一
(光明院普請に付絵図) 寛延四年正月	一	雜五	弘慶師寄附田反別帳入(袋)	一	雜二
(寺引直の儀に付書簡) 観行院より持善院宛	二	雜六	御 ^(代々) □御他宗御触書(袋断簡)	一	雜三
北野天満宮御詠 庚午年春	一	雜七	(書状包紙) 真光院御房より藤井因幡守宛	一	雜四
伽藍修復願書(袋) 安永三年	一	雜八	(諸国勸化等(横帳より分離))	三	雜五
(神社帳写・口上書控其節一件書及書状包紙) 文化			請雨願文 導師圭忍 明治三三年七月四日	一	雜六



5

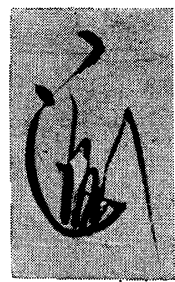


4



3

2

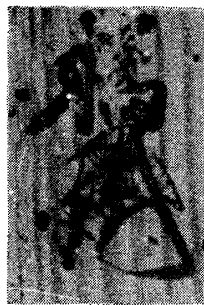


1



10

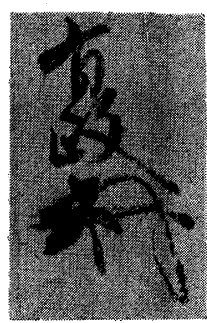
9



8



7



6



15



14



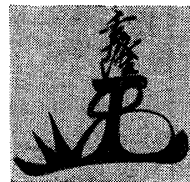
13



12



11



22



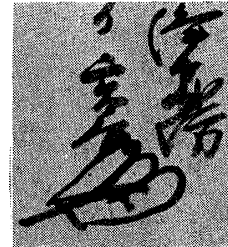
21

20

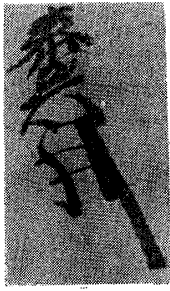
19

18

17



16



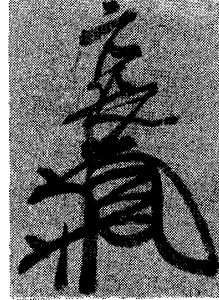
27



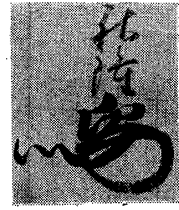
26



25



24



23



33



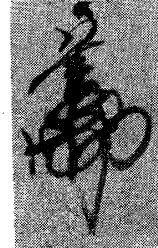
32



31



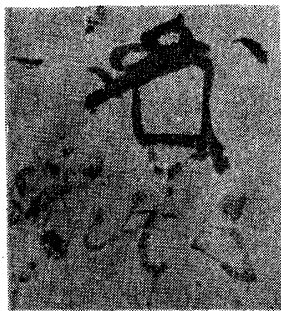
30



29



28



38



37



36



35



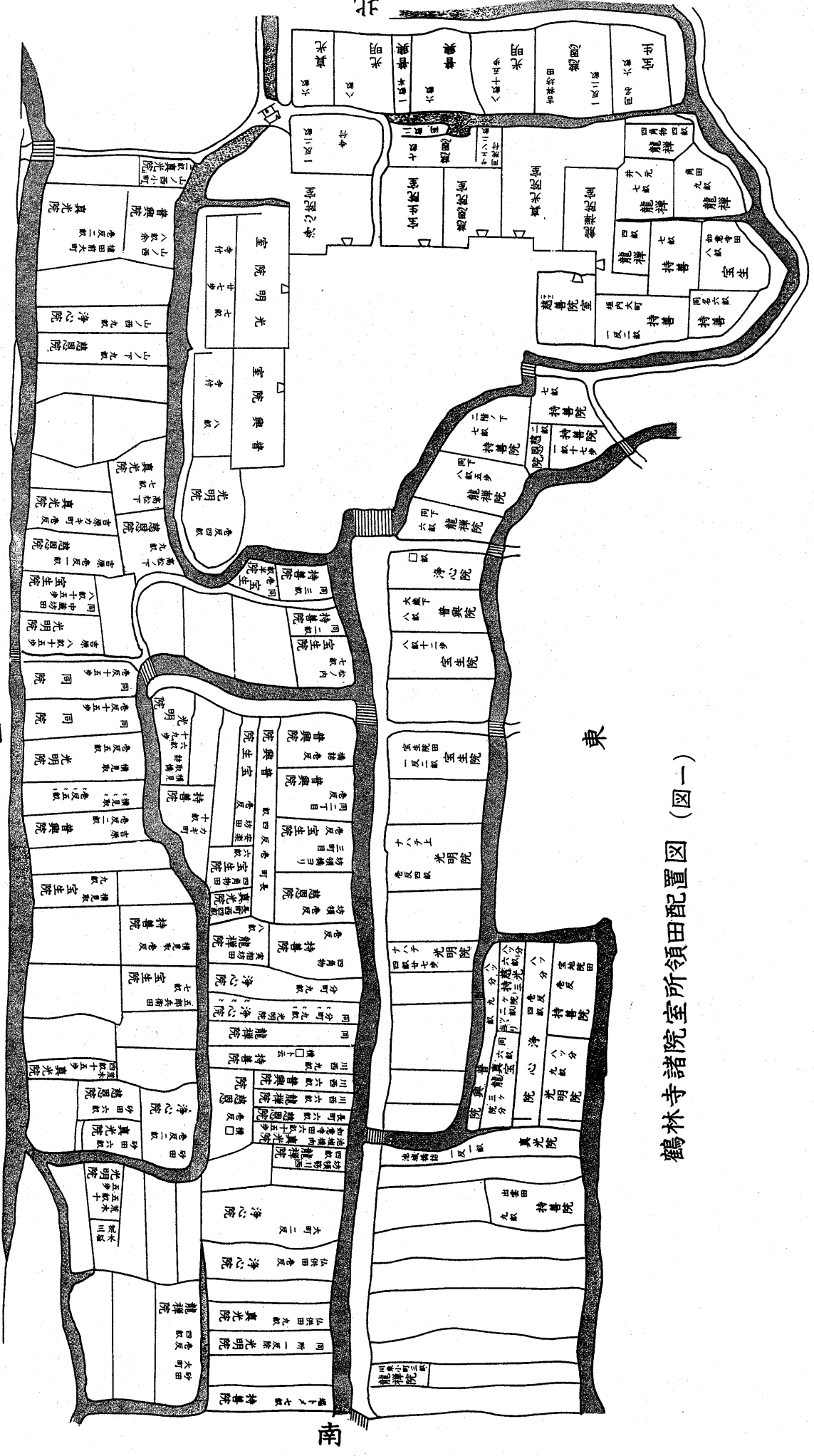
34

40

39



41



鶴林寺諸院室所領田配置図 (図一)